平成26年第1回基山町議会（定例会）会議録（第5日）						
招集年月日	平成26年3月3日					
招集の場所	基山町議会議場					
開閉会日時	開会	平成26年3月9日	9時00分	議長	鳥飼勝美	
及び宣告	散会	平成26年3月9日	15時30分	議長	鳥飼勝美	
応（不応） 招議員及び 出席並びに 欠席議員 出席12名 欠席0名 欠員1名	議席番号	氏名	出席等の別	議席番号	氏名	出席等の別
	1番	神前輔行	出	7番	後藤信八	出
	2番	久保山義明	出	8番	大山勝代	出
	3番	牧菌綾子	出	10番	品川義則	出
	4番	木村照夫	出	11番	林博文	出
	5番	河野保久	出	12番	松石信男	出
	6番	重松一徳	出	13番	鳥飼勝美	出
会議録署名議員		12番	松石信男	1番	神前輔行	
職務のため議場に出席した者の職氏名		(事務局長) 鶴田しのぶ		(係長) 藤田和彦		(書記) 友野紘香
地方自治法 第121条に より説明の ため出席 した者の 職氏名	町長	小森純一	こども課長	内山十郎		
	副町長	田代正好	健康福祉課長	熊本弘樹		
	教育長	大串和人	農林環境課長	松雪靖弘		
	総務課長	酒井英良	まちづくり推進課長	天本正弘		
	企画政策課長	木村司	会計管理者	天本政人		
	財政課長	城本好昭	教育学習課長	原博文		
	税務住民課長	鶴田勝美	こども課保育園長	渡邊稔		
議事日程	別紙のとおり					
会議に付した事件	別紙のとおり					
会議の経過	別紙のとおり					

会議に付した事件

日程第1

一般質問

1. 久保山 義 明
 - (1) これからの中心市街地のあり方について
 - (2) 地域おこし協力隊の受け入れについて
 - (3) 消防団員確保への取り組みについて

2. 大 山 勝 代
 - (1) 「子ども・子育て支援新制度」について
 - (2) 基山保育園の条件整備について

3. 林 博 文
 - (1) 土地開発公社の運営について
 - (2) 公共施設及び町有地の有効活用について

4. 松 石 信 男
 - (1) 生活保護費削減と町民のくらしの影響について
 - (2) 学童保育（放課後児童クラブ）のあり方について

5. 河 野 保 久
 - (1) どうする けやき台関連の諸問題
 - (2) 認知症対策はどこまで進展したのか

～午前9時00分 開議～

○議長（鳥飼勝美君）

ただいまの出席議員数は12名で定足数に対しておりますので、本日会議は成立いたしました。

これから直ちに開議します。

日程第1 一般質問

○議長（鳥飼勝美君）

日程第1. 一般質問を議題とします。

最初に、久保山義明議員の一般質問を行います。久保山義明議員。

○2番（久保山義明君）（登壇）

皆さんおはようございます。2番議員の久保山義明です。議長より登壇の許可をいただきましたので、通告に従い、3項目にわたって質問をさせていただきます。

その前にまず、日曜日の朝早くから傍聴にお越しをいただき、心から感謝申し上げます。議会改革の一環でスタートした土日議会ですが、3月という大変公私ともに忙しい中、決断をしていただいた議員各位、また対応していただいた執行部各位に改めて感謝申し上げます。傍聴者の皆様には、これから基山町がどういう方向性で進もうとしているのか、しっかりと見届けていただきたいと思います。

まず1項目、これからの中心市街地のあり方についてお伺いいたします。

基山町は、御存じのとおり都市計画が厳しく制限されています。その中で、この中心市街地を今回に限り定義づけさせていただきますと、旧庁舎跡地を含む、いわゆる都市計画の商業地域4.8ヘクタールを前提に話をさせていただきます。

ではまず、(1)町づくりにおける町長の理念とは何か、お尋ねいたします。

(2)旧役場跡地周辺の再開発について現在協議中の内容についてお示してください。

次に、2項目め、地域おこし協力隊の受け入れについてお尋ねいたします。

これは、御存じのとおり総務省が地域外の人材を積極的に誘致し、その定住、定着を図ることで、住民のニーズに応えながら地域力の維持、強化に資する取り組みとして平成21年3月に設置されたものであります。

そこでお尋ねいたします。

(1)基山町において受け入れをすべきと考えるが所感をお示してください。

(2)総務省からの特別交付措置はどのようなものがあるか、お尋ねいたします。

(3)地域おこし協力隊受け入れの際にどのような弊害が予想できるか、お示ください。

最後の質問項目です。消防団員確保への取り組みについてお尋ねいたします。

間もなく、あの東日本大震災から3年がたとうとしています。私も1週間でしたが震災直後の現地においてボランティア活動を行いながら、決して忘れてはならないと胸に誓っております。また、それと同時に、救助活動に奔走する消防団、それぞれの地域で活動する消防団の大切さと頼もしさも痛感していますが、団員確保に関しては現団員たちからその苦悩を見聞きし、今回の質問となりました。

(1)平成26年度佐賀県当初予算案に計上されている消防団員確保のための予算内訳をお尋ねいたします。

(2)これからの基山町として消防団員確保にどう取り組んでいくのか、お示ください。

以上3項目、通常より10分短い60分での質問時間です。明確に的確な答弁をお願いいたし、1回目の質問を終わります。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）（登壇）

おはようございます。早速でございますけれども、久保山義明議員の御質問にお答えを申し上げます。

まず1項目めのこれからの中心市街地のあり方についてということで、(1)町づくりにおける理念とは何かということでございます。これにつきましては、当初、私感じておりましたのは、町づくりそのもの、いわゆる行政のあり方というような捉え方をいたしましたものですから、考えましたのは、やはりもう総体的な考えで、町民の皆様の幸せのために、そのための住みやすさを追求することと、それを公正公平に進めることというようなことを考えておりましたけれども、むしろそうじゃなくて、今後の町の姿、形がどうなんだというお尋ねかなというような、そういう気もいたしましたものですから、これにつきましてはやはり以前から言っておりますように、活力といますか、にぎわい、それと安らぎ、ゆとり、この辺のバランスがとれた町の姿というようなこと、これが私の思うところでございます。

それから、(2)番目の旧役場跡地周辺の再開発についてと、現在協議中の内容について示せということでございます。旧役場跡地については、どのような可能性があるか等について

の調査や、どのような国の制度があるかなどについて協議をいたしております。

2 項目めの地域おこし協力隊の受け入れについてということです。

(1) 基山町において受け入れをすべきと考えるが所感を示せということでございます。現在のところそのような考えは持っておりません。しかし、制度の活用については研究していく必要はあろうかと考えます。

それから、(2)の総務省からの特別交付措置はどのようなものがあるかということでございますが、財源措置として募集に係る経費200万円及び地域おこし協力隊員1人当たり400万円を上限として特別交付税として措置がされます。

(3) 地域おこし協力隊受け入れに際し、どのような弊害が予想できるかということでございますが、現在どのような弊害が出るか把握はしておりませんので、今後そのようなことにも注意しながら研究していきたいと思っております。

3 項目め、消防団員確保への取り組みについてでございます。

(1) 平成26年度佐賀県当初予算に計上されている消防団員確保のための予算内訳は何かということです。佐賀県の消防団員確保のための4,100万円の予算内訳につきましては、消防団PR事業として2,000万円を計上されております。これは、県が新聞、テレビ等、メディアを利用した消防団活動等のPRを行う事業となっております。また、消防団員確保対策市町補助金が2,000万円となっております。これは、市、町が実施します消防団員確保対策のための勧誘用、広報用パンフレット作成費、自治会と連携した団員勧誘経費などや、防寒着、救命胴衣など消防団の装備等の資機材費の整備に対する補助となっております。このほかに、佐賀県消防協会が実施します消防団員確保対策の補助に100万円計上されております。

(2) これらの対応策について示せということでございます。基山町におきましても、消防団員の確保が難しい状況が続いております。このため、消防団活動などについて理解していただくために勧誘用、広報用パンフレットを作成するなど、消防に対する啓発活動を充実していきたいと思っております。また、地域によって勤務先が町外となっている団員が多く、昼間の火災出動団員が少数となっているところもあることから、機能別消防団員制度を検討し、消防団員の加入促進を図る必要があると思っております。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

それでは、2回目以降の質問は一問一答でお願いいたします。

まず、町長にお尋ねいたします。基山駅前市街地活性化協議会、これは町長が会長のようなのですが、どのような組織かお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

活性化協議会、これは当然、基山駅前の活性をどうして図っていくか、再開発なのかどうか、そういうことを検討する会だということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

今から約4年前、UR都市再生機構、また都市再生アドバイザーによる聞き取り調査をされています。その後の活動内容をお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

これにつきましては、当時、URのほうから人材を派遣してもらって、駅前の活性化についてどういう問題があるかということ进行分析していただいたということでございます。結果としましては、やはり人が集まる理由がなくなっているというのが一つの問題でしたので、ここに人を集めるような施策が必要じゃないかということ伺っております。その後、旧庁舎のところをいかに使うかということが必要だろうということになってはいますが、今のところ、それからは活動的には行っておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

平成21年9月11日付で、これは基山町長名で独立行政法人都市再生機構九州支社の支社長宛てに都市再生アドバイザー支援依頼を提出してあります。その内容は、旧役場跡地を活用し、宅地の共同化を図り、中高層住宅等の建設による住環境の整備に対する計画へのアドバ

イスということで出されてあります。この報告書が恐らく出ていると思うんですけども、その内容に対する答申、町の考え方は出されたのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

当時、先ほど申しましたとおり、やはり駅前という状況の中で、ここに人が集まってくる理由がなくなっているというのが一つの一番大きな問題だということは聞いておりますので、このところをどうしようかということで商工会と少し話した記憶はございます。具体的にはまだ動いている状況ではございません。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

つまり、まだ出されてないというか、もう完全に4年間、先送りをされている状態ですよ。これはちょっと前置きとして、後ほどまた聞かせていただきます。

先ほど町づくりにおける町長の理念をお尋ねいたしました。12月議会において品川議員の質問に財政課長がPFIは手段です、どんなサービスを行うのかというのが究極の目的ですと答弁されました。私もそのとおりだと思います。究極の目的、いわゆる理念がないものを幾ら、さあやってくれ、絵を描いてくれと言われても困るわけです。だからこそ、今回の一番初めに町長の理念をお尋ねいたしました。

ただ、ちょっと予想外の答弁で、先ほど追加も補足もありましたけれども、果たしてこの理念で町民の皆さんに響き渡るのか、また、何かあそこを再開発なり見直す際に、この理念で本当に前に進むのかというちょっと心配もありました。

そこで、企画政策課長のお尋ねいたします。第4次総合計画の基本理念、町として平成27年度までの基本理念は何でしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

御存じだと思うんですけども、「心豊かな人と人との関係づくり」と「自然と共生したまちの魅力づくり」と「みんなが進める協働のまちづくり」でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

今、企画政策課長は第4次総合計画を出されて答弁をされましたが、本来は全ての町民がそらんじて言い合えるのが理念だと思っています。これが町の根幹であり、方向性です。しかし、残念ながら、多くの町民の方と共有できているかという点、そう簡単ではありません。それは、その意識がないというか、意識をするような仕掛けがないからだと思っています。

ちょっと第4次総合計画について触れますが、最終年度の平成27年度の人口フレームの目標値、これは改めて町長にお聞きします、何人ですか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

まあ希望的なところもございましたけれども、1万9,000人だったかというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

そうです。1万9,000人です。しかし、ことしの1月から2月半ばまでに町長がみずから出席をされ、挨拶をされた、例えば年初めの全員協議会、年始交換会を初め、地域の老人クラブの新年会に至るまで、私が同席をさせていただいた少なくとも6回、全て人口減少は全国的な流れということをお口にされました。今回の施政方針でもそうです。確かに、全国的に見るとそうでしょう。ただ、私たちの町はどこを目指しているのでしょうか。少なくともあと2年間、あと2年間あるわけです。あと2,000人ふやすんだという意気込みをお口にされるのであれば、それは理解できます。最終年度までのあと2年間で集大成を行う、そのために予算編成を行うんだと、だからこそ施政方針でも真剣に考えるべきですと、みずから申し述べられました。

昨日の副町長は踏み込んだ発言をされたと思っています。町長、とにかく、人口減少の話は全国的な流れであるが、基山町としてはあと2,000人増のためにやっていくんだという発言をされるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

私も人口減少と、それから少子・高齢化、この辺のところは非常に気になる、これから日本の将来がここに一つやっぱり描かれておるといような気がいたしますし、基山町におきましても、これはやっぱりどこかに頭に入れておかなきゃいかんという問題だと思います。そういうことを抜きに、さあ開発だ、発展だということばかりではやっていけません、そういうことじゃないですかというようにことを申し上げておるわけでございます。これを余り言いますと、何かこう、減って当然だと、減少するのが当然、それを前提にというようにことごとございましょうけれども、私は決してそういう意味で言っているわけじゃございませんし、やはりふやす努力というのはやっていかなきゃいかんと、そのための福祉であり、教育であり、住みよさでありと、そしてこれから2年間ということとございましてけれども、2年というか、むしろ10年間はやっぱりこれは伸びしろはあると思いますので、それを伸ばす今までの環境にプラス施策をやっていかなきゃいかんと、そういう思いでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

そうです。そういう意味で言っているわけではないと言われながらも、やはり町民としてはそう受け取らざるを得ない状況ですので、そこはやはり封印していただいて、これから2年間どうやってふやすんだということを私は全面的に申し述べられるべきだと思っています。

今、民間企業において行われているミニ開発によって人口減少にストップがかかってくると思われますが、恐らくそこから先です、重要なのは。いつも言われる市街化区域内の残存農地30万平米をどうするのか、きのうも随分と出ておりましたけれども、これはもう何度でも言います。この残存農地でいつもストップがかけられてきましたので、1つ、飛び地となっている残存農地をどう整理していくのか、それから連続している残存農地を町としてどのように政策を立てていくのか、この解消だけで2,000人の人口増はクリアできるわけです。これは1区画70坪で、1世帯3人で計算してもクリアできるわけですね。あと2年間、町としての意気込みを改めて聞かせてください。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

それはきのうも申しましたように、どうしていくのかということ。残存農地というのは、もうこれはちょっと、だから市街化区域をもっと広げるといような、そのネックになっておるといことはもう事実でございます。したがって、その残存農地をどうしていくかということ。残存農地の中でも住宅に合うところ、合わないところ、いろいろございます。そういうところはやっぱり選別しながら、そして住宅開発できるんだといようなところには、やはり何らかの手だて、道路をつくるなり何なり、囲繞地にならないようにとか、そういうこともやっぱり町としてもやっていかなきゃいかんと。

そういうことで、とりあえずは今度総合計画で上げます、この10年間でどうしていくかといような、それはやっぱりしっかりうたっていかなきゃいかんといふふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

そうです。この手だてですよね、どうしていくのかという。私は、町長が町のトップとして、残存農地を抱えられる世帯、一世帯一世帯、きちんとヒアリングしていくくらいの覚悟が必要ではないかと思っています。町長みずからがお話をお伺いする機会をつくるということにはなりませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

今まで特にそういうふうな一人一人と話したということ、一人一人といつか、そういう方たちの集まりで話したといようなことはいたしておりません。ただ、本当に私も知った人、身近におりますし、そういう人とは本当にどうなんだといことの話は聞いております。やはり、そこには先祖伝来だからとか、何とか俺の代は守っていきたいとか、そういうふうなことも言われます。それから、確かに税制、ただこれで持っておって、農業をやっていたって税金等ペイできるのかとか、そういう悩みは持ってあるといことは聞いてはおります。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

私もできる限り残存農地をお持ちの皆さんとお話をする機会をつくろうと努力してまいりました。ただ、町長が今言われるように、さまざまな悩みをお持ちです。ですから、そこをやはり町のトップとして、一つ一つほぐしていく作業というのが絶対にやっぱり不可欠だと思いますので、ぜひとも前向きに考えていただきたいと思います。

ちょっと中心市街地から外れましたけれども、旧庁舎跡地を含む再開発、これも12月議会で時間がかかると答弁されました。私も慎重にやるべきだと思っています。ただ、理念なき政策であれば、住民を初め、後継者、相続対象の皆さん、どう対処していくべきか、混乱をかき立てるとしています。

このエリアは伝統的建造物群保存地区、いわゆる伝建地区にはなり得ないと思いますけれども、中には登録有形文化財には指定できる住居も数カ所見受けられます。まず、そこをどう認識してあるのか、お尋ねいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

誰ですか。久保山議員。

○2番（久保山義明君）

恐らくどなたも認識されていないんだと思いますので、先に進みます。

スクラップ・アンド・ビルドという時代は終わりを告げていると私も感じています。だからこそ、そういう認識もまた必要になってくるということはぜひ覚えておいていただきたいと、頭に入れながら行動していただきたいというふうに思っています。

(2)の現在協議中の内容について、時間の関係上、あわせてお聞きします。

相談をしておりますと答弁がありましたけれども、これは誰に相談をされているのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

この件に関しましては、まず1つだけ、再開発ということをすぐ考えているわけではございません。まだ再開発の可能性があるかどうかということもわかりません。それから、マンションという話もありますけれども、マンションが建つかどうかもわかりませんので、まず

そういう基礎的な調査が必要じゃないかということで、事業者のほうとそういう相談をさせていただいている段階でございます。具体的に会社名を申し上げるのは控えさせていただきます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

以前の答弁でも、まずは意識調査から進めたいという答弁がありましたし、今回も意識調査をやりたいと。その場合、どの範囲を想定されているのか、お尋ねいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

住民さんの考え方もお聞きしたいと申しあげましたけれども、まずどういう可能性があるのかということを探らないと、住民さんも何もなしに意識調査というわけにもいきませんので、まず先ほど申しあげましたとおり、どういう問題があるのかということ进行调查しまして、それを受けて住民さんの意識調査をしたいと思っております。

それから範囲ですけれども、当面、先ほど久保山議員がおっしゃいましたとおり、町道の基山駅前線の南側のいわゆる商業地域を今のところ考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

4年前のときは、これは線引きがある分はモール商店街やJ A跡地も含まれているみたいですが、今、答弁によると、いわゆる商業地域の4.3ヘクタール、ここを中心というふうな答弁だと思っています。

恐らく業者の方、これは不動産業者なのか設計会社なのかわかりませんが、相談を持ちかけているという、12月議会には不動産業者に相談を持ちかけているとありました。先ほど言われましたように、まず基礎調査の話だろうと思っています。今、このサーベイと言われる、いわゆる調査ですね、これは本当に大事です。都市コンサル、不動産業者、大手設計業者に丸投げ委託で済まそうなんていう考えは大間違いだと思っております。実際に、先ほどお聞きした4年前の調査事項もそのままになっているわけですよね、URに調査依頼を

して。結局、結果が出てそのままです。何の手もつけられていない状態で4年間過ごしてきたわけです。まさかそんなことは考えられていないですよ。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

そういう調査についても町として経験があるわけじゃございませんので、そういうこともいろいろ調べながらやっていきたいとは思っております。町でいろんな委託事業をしておりますけれども、決して丸投げをしているわけじゃございませんので、今度の総合計画でも丸投げをしているわけじゃございませんので、いろいろ町のほうとしても検討しながらやっている状況でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

私も委託するのがだめだというふうに言っているわけではないので、先ほども申しましたように、そこにはやはり町としての理念が絶対的に必要だと思っています。ただ、基礎調査をして、住民のアンケートをとる際に、今までが余りにも安易にされてきた経緯があるので、私がちょっと心配をしているところです。ですから、少なくとも紙切れを郵送して返信していただくなんていうことは考えないでいただきたいと思っていますし、きちんと家族構成や回答される方々の思い、気持ちを含めながら面談を進めていくべきだと考えます。

先ほど私は町長に理念をお聞きしました。今回は、もうこの理念という言葉は何度も使いますけれども、理念なきところでプランニングができるはずはありません。駅前から旧役場跡地のプランニング、これは恐らく10年計画、さらに10年かけて整備をしていくぐらいの年月がかかるかもしれません、もし一体的進めるのであればの話ですけれども。ただ、その間、町内で最もすぐれた立地である町有地をそのまま塩漬けにしておくなんてことは誰が考えても町の衰退を象徴するだけであります。ここはやはりスピード感が求められていきます。つまり、並行して進めていくという難しい選択を選ばざるを得ません。これについてどのようにお考えか、お聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

今、幾つか、前のに戻りますけれども、本当に混乱を来しておるといふような言葉、これもそうかなというふうに思いました。動かない、どうなるかわからんというふうな不安の混乱と、それから逆にあんまり早く早くやっっていく、それに対する不安というの、混乱というの生じてくるかとも思います。本当に、やっぱり住んである方もあるわけですから、商売なさってある方もあるわけですから、その辺のところはやっぱりスピード感と言いながらも慎重にやっっていく必要はあるというふうに思っております。

町づくりに関しましても、本当に、これは基山町は決してそういうことじゃない、やっぱり駅前のにぎわいというのは必要だと、それはさっきから申し上げるとおりですけれども、本当に町づくりというのはどうあるべきか、大きな都市あたりではもうそんな駅にこだわらん、駅前の商店街にこだわらんでもシェル型でもいいじゃないかとかなんとか、いろいろ町づくり関しても考え方があるといふような、そういうこともやっぱり考えあわせて、基山町はしかし駅前を何とか活性化しなきゃいかんと、それは一つの私も理念といいますか、考えとしては持っております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

わかりました。ちょっとまた先ほどの基礎調査に関連してお尋ねいたします。

また議長の許可をいただいて拡大コピーをお持ちしました。この特定地域再生制度、これは御存じでしょうか。内閣府が出しているやつです。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

詳細まではちょっと存じておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

本当何かこう、台が欲しいんですけども、これは内閣府地域活性化推進室が募集をかけている事業であります。その中の特定地域再生計画策定事業、こういうのがあります。地域

の将来像や課題の解決のための取り組みについて、住民や関係団体との合意形成を図るため、調査等を実施する場合に補助金を交付するというものです。これは募集開始は3月14日、締め切りは4月14日、あと1カ月以上あります。私は正直言って、町長や企画政策課長がイメージする町づくりというのがなかなか見えてきません。この補助金の話をして残念ながら何のアクションもないんでしょう、恐らく。問題意識を常に持っていただいているのであれば、一歩前に進むためにも申請されていいはずですし、やはりこういう調査をしたいと言われているんですから、1,000万円上限の補助があるわけですよね。だったら、やはりみずから率先して、私が見つけられるぐらいですから恐らく皆さんが見つけられないわけないんですよ。だから、常にやっぱり問題意識を持っていただきたいなど。

このイメージにも書いていますように、地域公共団体が対象となっています。協議会のような多様な主体性を持ってチームを組んで、ですから設計会社とか不動産業者にお願いしますとやるのではなくて、協議会のような多様な主体性を持ってチームを組んで住民や関係団体に意識調査やワークショップ等を開催します。そこで得られたニーズ、課題の把握、コンセンサスの醸成、そして地域再生法に基づく特定政策課題、例えば市街地において医療、介護、福祉、子育て等のサービスを一体的に整備、提供する町づくりの地域再生計画を住民の皆さんと共有した理念のもとに作成に向けて動き出す。これは、まず研究、検討するに値すると思われませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

それにつきましては、最近メールで来ておりましたので、係長のほうにちょっと検討をお願いしております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

メールは来ている。あと1カ月です。私は、ぜひとも早急にこの獲得に向けて動き出していいと思っています。

先ほどからいきなり再開発というわけにはいかないというふうに言われています。この資料も取り寄せて、ずっと調べていました。これは国交省のやつですね、地方都市リノベーシ

ョン事業、それと都市再生整備計画事業、これらを活用して一気に市街化再開発をやるべきというふうに言っているわけではありません。100年以上の歴史を持った民家や長崎街道といった基山町の歴史を刻んできた町並みであります。また、ここには皆さん御存じのように、役場があつて、郵便局があつて、病院があつて、商店街があつて、銀行もあつたわけです。このわずか4.7ヘクタールの中にひしめき合っていたわけですよ。当然、町民の方々はここに集まる必然性を感じて、ここに集まってこられました。それと同時に、この狭い基山町において唯一都市計画における商業地域でもあります。最も容積率が高い地域でもあります。だからといって、その商業施設を今さら持ち込んで、あのにぎわいをもう一度という発想は、逆に未来への町づくりには逆行する可能性も否定できません。だからこそ、先ほど言いましたように、医療、介護、福祉、そして子育て支援の核として、もう一度この場所に足をとめていただく仕組みが必要ではないかと思っています。慎重に、そしてスピーディーに、さらに高齢者と若者が互いに共生し合いながら寄り添うソーシャルデザイン、コミュニティーデザインを取り入れた、もうまさしく基山らしい町づくりを願っています。丁寧な調査、そしてこのような目的があつて初めてPFIで可能なかどうかということが問われてくると思います。また、民間活力が生かせるのかどうか、この判断になるとと思っています。

町長の意見とお考え、そして、この旧庁舎跡地、約2,220平米あります。どのようにしていくのか、改めてお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

今、久保山議員おっしゃったとおりだと私も思っております。やっぱりにぎわいというのは、駅前、あの一角に必要だということ、これは申し上げておるとおりでございます。先ほどシェル型なんていうような変なこと言いましたけれども、シェル型はやっぱり必要だと、分散型、これはもう大きな都市、郊外というようなことになりますから、基山は決してそういう話じゃないと。だから、やっぱり駅前をしっかり固めていくというようなこと、そして市街化区域の再生、活性化というようなこと。今これ、それとはもちろん違うと思いますけれども、やっとな佐賀市、やっとなといいますかね、佐賀市でもやっぱり古くなった建物とかいろいろありますから、商工会議所とかなんとかもよそに持っていくとか、そういうふうな取り組みを佐賀市がやっておるんだなというふうには思っております。基山町もやっぱりおく

れないようにそれをやっていきたいというふうには思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

旧庁舎跡地、この2,220平米、これはどうされますか。とりあえずそのままですか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

とりあえずそのまま、そのままという言葉は余り響きがよくないかも知りませんが、とりあえず今すぐどうこうということじゃないとだけは申し上げておきます。そういうことはやっぱり民間とも話し合っていかなきゃいかんし、町としてもあれにこだわるというつもりはございませんので、その辺はそういう業者があればお互い連絡をとってやっていきたいと、連携をとってやっていきたいと思えます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

私の町づくりにおける理念というのは、実は町づくりは関係づくりだと思っています。この理念のもとに私は動いているつもりです。グローバルスタンダードという言葉から、今、グローバルという言葉へと地方では変化してきています。つまり土着性です。

基山らしさとは何か、改めて追求するために、金太郎あめのような絵を描いてしまう大手企業や都市コンサルによる安易な意識調査やアンケートなどをするのではなく、お互いを認め合いながら関係づくりを持続的に行える仕組みをつくっていただきますようお願いして、次の質問に移らせていただきます。

続きまして、2項目め、地域おこし協力隊の受け入れについてお尋ねいたします。

こちら時間都合上、(1)から(3)まであわせて質問をさせていただきます。

まず、地域おこし協力隊の現状から説明させていただきます。これもちょっと拡大コピーでござんください。平成21年3月から受け入れを開始し、平成21年は全国で隊員数89名、31の自治体からスタートしました。翌平成22年は隊員数257名、90の自治体、平成23年は隊員数413名、147の自治体、平成24年、隊員数617名、207の自治体、そして昨年、平成25年は978

名、318の自治体といったように、その受け入れ自治体、また受け入れ人数、受け入れ隊員数ですね、すさまじい勢いでふえていっています。ただ、佐賀県では平成25年で3の自治体、隊員数も5名であります。これは、大都市圏以外では圧倒的に低い数字になっています。つまり、人をなかなか使い切れない土地柄なのかもしれません。

まず、この全体の伸び率の数字を見て、なぜここまで急速な伸びになっているとお考えなのか、お聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

そもそもこの制度の目的はですね、いわゆる自治体の特定の地域において非常に人口減とか高齢化とか進んでいる中で、そういう特定の地域を盛り上げようということで、そしてそこに定住化を図ろうということで政策的に制度が設けられたものでございます。これにつきましては、近年の高齢化とか、合併による周辺部の停滞という問題も最近は顕著化しておりますので、そういう必要性が随分出てきたかなというのを認識しております。それともう1つは、少し使い方が違うんじゃないかと思われような使い方もされてきております。特定の地域じゃなくて、市町村が呼んで使っているという状況もあるみたいなんです。だから、それはちょっと本来の目的とは違うんじゃないかなという気はしております。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

1回目の答弁で、制度の活用については研究していく必要性はあろうかというふうに答弁されましたが、研究は十分にされているんじゃないですか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

答弁もあるので、ちょっと勉強させていただいたところでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

また先ほどの答弁の中で、使い方がちょっと違うんじゃないかというふうな発言もありました。これは総務省がどうこうとか、その使い方がどうこうというのは、その自治体独自で考えていくべきだと思いますけれども、それをあえてよそのやり方に苦言を呈すというのはいかがなものかなと思います。いかがでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

自治体の使い方ですので私がちょっと言う必要はございませんけれども、情報として、協力隊を呼んだところでいろんな考え方がありまして、協力隊の方が行政に求めるので地域の人々が欲しくて呼んだとは思えないとか、それから、受け入れ側の担当者がどういう目的で呼んだかわからないとか、そういう問題が出てきているわけですね。これは安易に人を使って呼ばばいいということからそういう問題が発生してきていると思いますので、やはりその辺は目的をしっかりとって呼ばなきゃいけないなという感想を持ちました。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

いや、もうまさしくそのとおりですよ。ですから私は先ほどから、何でこれ受け入れられないのかなと感じてしまうんですよね。そこまでわかっていらっしゃるんでしたら、重要なのは目的とミッションなんですよ。これを町がきちんと決めればですね。先ほど恐らく失敗例をあえて出されていると思うんですけど、成功例も出されてください、そのときには。失敗例だけじゃなくて。（「成功例も」と呼ぶ者あり）何か成功例で御存じな自治体、御存じですか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

昨年だったと思います、四万十川のところで、四万十市で、四万十市は中村市と、もう1つ、西土佐村が合併したところなんですけれども、西土佐村のほうにそういう協力隊を呼んで非常に活発にされているという報告を聞いたことがございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

四万十はテレビドラマにもなりましたし、非常に注目を浴びています。また、この近隣では対馬市、恐らく今、5人か6人ぐらい受け入れをされていますけれども、そのほとんどの方たちが起業をその場所でやり始めているということです。

ですから、とにかく目的とかミッション、これが見つからないんですか。だからやらないということなんですか、改めてお尋ねします。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

今考えておりますのは、せっかく今総合計画を練っておりますので、恐らく基本計画を設定する段階でいろんな問題が出てくるかと思えます。そういうものの解決策としてこういうものを使ったらどうかということは念頭にございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

私は、どうしてもやっぱり基山町が一步前に進めきれないところが、やはり情報の発信ではないかなと思っています。情報の発信、共有、そして今回の基本構想案にも随分と出てきましたシティプロモーション、これをどれぐらいの町民の方が理解しているのか、甚だまだ疑問ではありますけれども、これをどうやって継続していくのか、ここが圧倒的に不足していると感じています。現在、基山町としてSNSソーシャルネットワークサービス、ソーシャルネットワークを活用した情報の発信はございますか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

町としてやっているものはないかと思っています。観光協会のほうで少し、それらしいものを行っているというのは聞いております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

それらしいものですか、を聞いているということですが、現在、基山町の観光協会の、これは恐らくフェイスブックですが、1,000人以上の方に見ていただいています。これは恐らく観光協会というよりも役場の職員の方の努力だと思っています。ただ、これをどうやって継続していくのか。また、LINEといった新しい媒体も多く、若者に指示をされています。多久市では、このLINEを使った情報発信も行われております。

つまり、これらSNS、ホームページやブログ、フェイスブック、ソーシャルメディアによる情報の発信、新たな資源の掘り起こし、イラストや写真を活用したデジタルフォトマップの活用など、ほかの地域の人が感じた姿を発信する重要性をミッションとして受け入れることが必要だと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

この制度だけを利用する必要というものは無いと思っておりますので、ほかの方法もちょっと今検討している部分がありますので、それは検討の1項目として考えさせていただきます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ほかに検討されていると、具体的な事例ってありますか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

いわゆるプロモーションの部分になるんで、そのところはまだ確定的なものとは言えませんが、雇用対策のところを少し使えないかということは検討はしております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

わかりました。

ただ、恐らく緊急雇用もそうでしょうし、そういう分野だと思いますけれども、これは総務省からの特別交付が来るわけですから、600万円。200万円と400万円ですね。3年上限で来るわけですよ。これを使わない手はないなというのと同時に、今、地域おこし協力隊が全国各地に約400の自治体あるわけですから。その連携というやつも当然に出てくるわけですよ、地域おこし協力隊同士の連携というのが。私はそれも加味したところで提案をさせていただいています。

ですから、最後に確認しますが、とにかくこの情報の発信というのは、とりあえずこの制度を使わないということであれば、何らかの形で必ず続けていくんだということ、最後に確認しますが、よろしいですか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

町について情報発信という問題は、きのうも述べましたけれども、パンフレットとか配布しておりますし、従前からやってきたことでございます。手法はいろいろあるようですので、そういうことは今後検討はさせていただきます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

はい。何というかな、企画政策課長というのは、私は、いわゆる町の活性化、企画政策のいわゆるリーダーだと思っておりますけれども、いつもどのような職責を考えて臨んであるか、一度お聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

職責と言われるとちょっとあれですけど、基本的に考えていることは、やはり基山町は大きな町でもございません。なかなかよそと同じことを何でもやれるという状況ではございませんので、その中からやはり選んで一つ一つ着実に積み上げていくことが基山町にとっては最適な方法じゃないかというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

それでは、残り10分となりましたので、最後の項目に移らせていただきます。

消防団員の確保にどのように取り組んでいくのかをお尋ねいたしました。まず、県内20市町との検討会を立ち上げるとの報道がありましたけれども、既に開催されたのか、お尋ねいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

消防団員確保対策については、佐賀県のほうで佐賀県消防団員確保対策検討会というのを平成25年度に立ち上げられております。その中で、県内の市町の団体を県のほうが回りにしてヒアリングを行っております。

基山町においても、部長会において県のほうから職員が参りましてヒアリングを行って、市町の担当者、それから消防担当の組織が集まって、その検討会を開いております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

県のほうから担当者が部長会に出席をされているというふうに今答弁がありましたけれども、部長になっている消防団員というのは、かなりの使命感を持っている団員ですよ。ですから、本来はもっと来られたり来られなかったりするような団員にヒアリングをされるべきではないかなと思いますけれども、それを総務課長に言っても仕方ありませんので、ぜひそれは県のほうにお伝えいただきたいと思います。

また、この中でどういう課題が出されたのか、把握してありますか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

この検討会については消防団員のアンケート等もとられておりますので、今の消防団の現状とか課題、そういうものが意見交換会の中で取りまとめをされております。その中で、意

見交換会の課題としては、やはり消防団のちょっとイメージといいますか、そういうものがちょっとあんまりよくない部分があるとか、それから団員の勧誘とかについては団員がしているとか、それから全体的に団員の年齢層が上がっている、それから被雇用者がほとんどというような団員構成になっているというような課題があるかと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

今回の県の予算、約半分2,000万円がメディア広告費のようです。この残り2,000万円で各市町へ2分の1の補助が来るわけですがけれども、今、団員たちは、本当に夜遅くまで新入団の確保に奔走しております。

行政として何ができるかといった活用策、先ほど1回目の答弁では広報用のパンフレットを作成してとかということをおっしゃいましたが、本当にそれで人が集まるのかなという、正直悩ましいところもありますが、総務課長、そのあたりいかがでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

今、久保山議員が言われるように、私もパンフレットをつくってどうなのかというのはあります。ただ、消防団の今ちょっとアンケートもイメージが余りよくないという部分もありますので、県においても2,000万円の費用を使ってテレビ等のメディアで今の消防団活動を3年間はPRをしていこうということで、やはりイメージを変えていくというのは非常に大事なことです。そういう佐賀県が行っておりますメディアによるイメージの変更といいますか、良好なイメージを持っていただくということです。基山町においてもどれぐらいの効果が、すぐに効果があるというものは、なかなか効果が出るというのは難しいかと思っておりますけれども、やはり県と連携をしてPR活動をしていくというのは非常に大事なことだと思います。

この消防団の団員確保については、これさえやればという画一的な方法はないと思うんです。ですから、いろんな方面からそういうPR活動なり、それから国のほうとかも処遇の改善とかいろいろ方法は示されておりますけど、そういうものをするによって団員確保につなげていきたいというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

現在、基山町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例において、消防団員資格が20歳以上になっております。これは県内20市町において基山町だけであります。ほかは全部18歳以上です。この理由をお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

消防団員の入団資格につきましては市町村条例で定められております。今言われたとおり、全国で18歳と定めているところと20歳以上と定めているところがあるわけですが、18歳以上で定められているところがほとんどだと思います。

基山町のほうでは、この消防団の条例が制定されたのが昭和25年ごろだと思うんですが、そのころの団員数が310名となっております。ですから、ある程度の団員確保ができているということで、その当時の20歳以上で310名確保できていますので、基山町では20歳以上の年齢にしたのかなというふうに思っております。ただ、昭和25年ですので、はっきりした理由はちょっとわかりませんが、そういうことだと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ですから、今この現状において、18歳に引き下げる必要性はないとお考えですか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

消防団員確保対策として入団の促進ということで、今、大学生の消防団員とか、大学生を避難所の支援として機能別消防団員にするというような市町村もあります、全国ではですね。基山でそれができるかどうかというのはわかりませんが、18歳にすれば確かに資格要件が緩和されるわけですので、そこら辺は消防委員会なりで検討していただきたいというふうには考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ぜひとも検討してください。その18歳という話も、実は内部から来た話であります。本来であれば消防委員会の中で十分検討していただいて、条例ですから議会で議決をするということだと思いますので、それが内部のほうから議会に来られるというのは、やはりなかなか委員会の中でそういう発言がしにくい状況にあるのかということもちょっと思ってしまったので、ぜひよろしくをお願いします。

西日本新聞、これももう何度も皆さん見られたと思います。「街の力 消防団」「来たれ消防団」「あの日の教え 消防団」と題して、本年、年初から十数回連続で企画、執筆されました。この中で、学生の増加というのが特集で組まれています。いわゆる東日本大震災におけるボランティア精神、これを植えつける形によって、大学入学と同時に地元の消防団に入りたんだという学生が意外と多いという記事も中にありました。ですから私は、今現在20歳以上にしておく理由もないと思っています、今の理由を聞くとですね。ですから、そのあたりもぜひ前向きに検討していただきたいと思いますけれども、答弁として、昨日、品川議員の機能別消防団、これも検討していくというふうにありました。2月に基山町の中心地において火災が発生したときも、私が駆けつけたときには分署だけで、逆にOBの皆さんのほうが随分消防車よりも早く駆けつけてくれていました。その中において、やはりOBの役割というのがいかに大切かということも実際感じたわけであります。

こういうことも踏まえながら、ぜひとも消防委員会の中で活発な議論を促していただきたいをお願いします、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（鳥飼勝美君）

以上で久保山義明議員の一般質問を終わります。

ここで10時10分まで休憩します。

～午前10時00分 休憩～

～午前10時10分 再開～

○議長（鳥飼勝美君）

休憩中の会議を再開し、次に、大山勝代議員の一般質問を行います。大山勝代議員。

○8番（大山勝代君）（登壇）

皆さんおはようございます。8番議員の大山勝代です。どうぞよろしく申し上げます。傍聴の方、ありがとうございます。今回の私の質問は、国が来年4月本格施行を目指している子ども・子育て支援新制度についてと基山保育園の条件整備についての2項目です。

1つ目の子ども・子育て支援新制度では7項目についてお尋ねをします。

これは2012年、新保育システムとして国会で子ども・子育て関連3法が成立しました。新システムについては、保育の質の低下につながるとして、各団体、保育士のほうからも反対の声が上がっていました。今回の新制度として余り形を変えずに、また検討が今進められています。そもそもこれは都市部で大きな問題になっている公立保育園や学童保育に入れなかった児童をどう解消するかという問題から出たものです。しかし、だからといって基山はその解消は必要ないからということではなくて、今後の基山の保育行政に関連して、どう変えられていこうとするのか、その観点で質問をさせていただきます。

(1)そこで、初めの質問ですが、この子ども・子育て支援新制度とはどのようなものでしょうか。

(2)今の保育園の制度から基準が緩和されるということですが、現在の保育の質とではどう変わるのでしょうか、お尋ねします。

そして、市町村の保育における公的責任はどうなるのでしょうか。

基山町は数年前、我が子を保育園に預ける保護者の負担を少しでも減らそうと、区分を小さくして実質的に保育料が値下げになりました。しかし、この新制度が実施されると、保護者の経済的負担が大きくなるのではないかと懸念されますが、どうでしょうか。

新制度が導入されると、保育園の形態が大きく変わるのではありませんか。そこで、働く保育士の方の労働条件等はどうなるのでしょうか。

基山町でも設置されている子ども・子育て会議ではどういう議論が今進められていますか。

そして、ニーズ調査が行われましたが、それはどのようなものでしょうか。また、今後どうそれを生かされるのでしょうか。

2つ目です。基山保育園についてですが、外目には大きくて、赤い屋根で立派な新しい建物のように見えます。しかし、中身といえば随分老朽化が目立っています。

そこで、質問です。

基山保育園は現在建てられて何年経過、また耐用年数は何年でしょうか。

老朽化で雨漏り、水漏れなどの対応が大変だとお聞きしました。今、大きく修理が必要な

箇所はどこでしょうか。

今の状態では早急に基山保育園は全面改修、改築が必要だと思います。移転も含めて、近い将来、その予定がありますか。

現在、建てかえが予定されているたんぼぼ保育園とよく比較されるわけですが、今、基山保育園が抱えている問題は何かとお考えですか。

最後です。それらをどう解消するおつもりですか。

以上、1回目の質問を終わります。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）（登壇）

それでは、大山勝代議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、1項目めでございます子ども・子育て支援新制度についてということで、(1)来年4月施行予定の子ども・子育て支援新制度とはどういう制度かというお尋ねです。

核家族化や高齢化の進展に伴い、地域のつながりが希薄になり、親が子育てをするときも子供が育つ上でも必要な子供同士や親以外のたくさんの人たちとのかかわりが少なくなっております。こうした現状を解決するために、次の取り組みを行うものです。

第1に、質の高い幼児期の学校教育や保育を総合的に提供できる仕組みづくりを行い、市町村に窓口を一本化するとともに、国も内閣府に一本化し、二重行政を解消すること。第2に、都市部の待機児童の解消と子供が減りつつある地域の保育や子育て支援を支えること。第3に、地域で生き生きと子育てができるように親子で相談や交流などができる地域の拠点をふやしたり、多様なメニューから施設や支援を選べるようにすること。以上3点を掲げ、一人一人の子供が健やかに成長することができる社会の実現を目指すものです。

(2)の基準緩和で保育の質はどうかということですが、現在の基準を踏まえて各種の基準設定が行われますので、保育の質の低下はないと考えております。

(3)市町村の公的責任はどうかということです。

子ども・子育て支援法では、実施主体が市町村と位置づけられております。

(4)保護者の経済的負担はどうかということです。

利用者負担額の設定については、現在、国の子ども・子育て会議で議論されており、現行の利用者負担額を基本に検討され、平成26年度の早い時期に公表される予定でございます。

(5) 保育士等の保育労働者の労働条件はどうかということですが、

現行の制度を基本に運営基準等が定められる予定ですので、労働環境が悪化することはないと考えております。

(6) 基山町子ども・子育て会議の設置で、どう議論が進められているのかということですが、平成25年度は子ども・子育て支援に係るアンケート調査の内容の審議と調査結果の審議をお願いいたしております。平成26年度になりますと、子ども・子育て支援事業計画の具体的な内容の審査をしていただくこととなります。

(7) ニーズ調査とはどんなことをしているのかということですが、子ども・子育て支援事業計画を策定するに当たり、子育てをされている御家庭の現状とニーズを把握するため、現在の利用状況及び今後の利用希望等について、国の基本指針等に基づきアンケート調査を実施しました。

それから、2項目め、基山保育園の条件整備についてでございます。

(1) 基山保育園は築何年で、耐用年数はどうかということですが、

現在の園舎は昭和50年に竣工しており、38年が経過しております。耐用年数は財務省令による減価償却耐用年数によりますと、鉄骨づくりでは38年となっております。

(2) 現在修理が必要な箇所はどこで、どう改善する予定かということですが、

修理箇所といたしましては、建てつけが悪い建具、時々雨漏りする屋根、塗装がはげている内壁などがございますが、その時々での修繕で対応をいたしております。

(3) 全面改築の予定はあるかということですが、子ども・子育て支援事業計画の中で保育需要を精査し、定員を見直し、今後検討をしております。

(4) 基山保育園の抱えている問題点は何かということですが、

第1に、待機児童を出さないようにすることがあります。また、障害とまではいかない気になる園児がふえていることがあり、保育現場での対応に困難な局面が生じております。

(5) それらをどう解消するつもりかというお尋ねです。

近年の傾向として3歳未満児の入園希望が多く、ゼロ歳児の園児では3人に対し1人の保育士が必要なため、臨時雇いの保育士により対応に当たっております。

また、気になる園児への対応としましては、早期発見、早期治療に取り組み、保健師による巡回訪問により、気になる園児の早期発見から専門機関への受診につながるなど対応を進めております。さらに、保育士も積極的に障害児対応研修等に参加し、スキルアップに努め

ております。

以上です。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

ありがとうございました。それでは、2回目以降の質問に移ります。

まず初めに確かめたいのは、単純な質問です。基山、たんぼぼの認可保育園については役場のこども課に申し込む、無認可や私立の幼稚園等にはその園に直接保護者が申し込むということでもいいですか。それが一本化になるということですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

現在は、今、議員がおっしゃったような形での申し込みになります。新しい制度になりますと、これが公立、私立の認可保育園の場合は町のほうに、幼稚園の場合も、一応施設のほうに申し込みをしながら認定をするという、役場のほうには当然申し込みをされるという流れになります。ただ、無認可の場合であれば、そのまま無認可の保育所という形になれば、それは直接無認可の保育園のほうにお申し込みという形で、ただ、今回の制度にある地域型の小規模保育という形に移行されるようであれば、それは当然役場のほうにお申し込みという形になります。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

いずれにしろ、新制度で煩雑になるということのようです。いろんな資料を調べてみますと、今まではすっきりきちんとしていたもの、ただ、保育所の保育と、それから学校教育、幼稚園、その辺の2本立てはありましたけれども、今回、それがこうなって、わかりにくいというのが実感です。まだたくさん勉強しなければいけませんけれども、わかる範囲で質問をしたいと思います。

この新制度ですけれども、先ほどの一本化ですよね。と言われましたからいいのですが、あとの細かく分かれたところで、また質問をしたいと思います。

補助金の対象となる施設等の種類がふえますよね。それはどういうことですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

確かに先ほどの一元化というのが、大きくは幼稚園と、それから保育園ですね、それぞれ管轄が文部科学省と厚生労働省で、それぞれのほうから補助金というか、お金がおりてきたのを今回は一本化して、市町村を通じて支給になるという形になりますので、幼稚園、保育園とも市町村を通じて助成が出てくるという形になります。

それとあと、これまで国の補助対象になっていなかったような小規模な保育施設ですね、例えば、地域の中で数人預かってやられるような、俗に言う保育ママという形でされていたりとかですね、そういった形で新たなサービスの事業所も対象にしたりとか、あとは地域の子育て支援事業という形で、それも今回の事業計画になるという形で、基本的にこれまで、例えば、幼稚園であれば県のほうと直接やったりとかいう、補助金とかいろんな施設の申し込みとか、事業所の認可とかは県のほうだったのが全て市町村を通じて窓口になるという形になりますので、俗に言う権限移譲みたいな形で、県のほうでやっていた分を市町村のほうで一括して窓口になって対応させていただくということでの一元化という形で今回の制度がなっております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

今の課長の説明の中で、幼保連携型認定こども園については言われませんでしたので、そこを聞きます。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

当然、そちらの施設のほうも対象になりますが、ちょっと言い忘れたのは、町内にそういう施設がございませんでしたので、わかりやすいような形で、その点は申し上げませんでした。当然、認定こども園のほうも今回の対象になっております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

わかりました。

国のスケジュールによれば、市町村は2014年夏まで新制度にかかわる基準や保育料などを条例で定めなければいけないようになっています。国はまだできていないと言いながら、市町村に大まかなところをつくれと、そんな矛盾したことがあるのかと、いろんなことで私は思っていますが、その基準がどう変わるということがはっきり言えますか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

先ほどの町長の答弁の中にもありましたが、今、国の子ども・子育て会議の中でそれぞれ専門部会等をつくりながら、基準であったり、利用者の負担の部分だったりとか、そういったものを議論されて、今、最終段階に来ている状況でございます。今の情報でいきますと、4月上旬ぐらいには政省令等が出てくるのではないかというふうには言われておりますけれども、まだ明らかではございません。

ただ、今、議員がおっしゃるように、もうスケジュールは決まっておりますので、先ほど申し上げたようないろんな受け付け等も始めないといけませんので、6月議会には関連の条例の制定が必要なのではないかというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

わかりました。何かこども課としては忙しくなりそうですね。

先ほどの回答で、第2のところ町長は子供が減りつつある地域の保育や子育て支援を支えと言われてましたが、そのイメージがいま一つわかりませんが。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

第2の中で申し上げて、1つは、先ほど議員がおっしゃったように、大都市等の待機児童がいるところの問題を解消するというのが大きな問題で、地域の子供が減りつつあるところ

では、そういった施設はあるけれども、定員割れをしているような状況の施設等については、例えば、広域調整をやるとか、そういった形での調整もしながら、その施設をきちっと残すなり、そういった形をやるとか、あるいは先ほど申し上げたように、これまで小規模な施設等は事業の対象になっていなかったものも今回事業に上げて、地域の実情に応じた保育体制をつくるというところで、子供が減りつつあるような地域の部分も子育て支援を進めるということで今回の制度が考えられております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

今のお話では、減少するということでは基山に当てはまる。だけれども、基山はちょっと特別というか、たんぽぽ保育園はふえている、基山保育園は定員割れ、その辺の調整が今後どうなるのかがちょっと私としてはわかりませんので、今後の推移を見守りたいと思っています。

児童福祉法第24条第1項で、自治体の公的責任をうたっています。しかし、第2項というのがつくられて、現行よりも後退と思われるものがあります。基山町でそれを適用するとき、例えば、どういう事業を考えられますか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

具体的な内容が、今、ちょっと手元にありませんので、ちょっと具体的な部分がわかりませんが、お示しいただければと思いますが。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

先ほども言われて私が認識したのは、何か複雑になるということが頭にあって、第1項の、現行のままで児童福祉法第24条を適用して、今のままでして基山としては不都合ないのになんというのをもともと私は持っています。ですから、そこは細かいところで、今から先の議論になると思いますので、そこまででとめていいですか。

○議長（鳥飼勝美君）

こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

今回の制度については、今、議員おっしゃるように、例えば、基山町で保育料に関しても国の基準の中で、そして基山町独自として段階的にその中を分けているというようなことを実際やっております。大きく今回国が示す基準も、これまでの内容を踏まえたところであるような状況を勘案しながら基準を定めるというふうになっておりますので、悪くなるほうにはならないとは思っております。

ただ、その中で、これまで基山町が独自のサービスとしてやってきた部分については十分考慮しながら、どこまでいけるのか。例えば、守らなければならない基準とか参酌すべき基準というのも当然出てくる。参酌ですね、参考にしながら町でも決めていいというようなこともあるかと思っておりますので、そういう点も含めて、それぞれの制度を定めていきたいというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

保育料の負担のことが出ましたので、そもそも今度出てきた新制度は社会保障と税の一体改革との関連の中で、私たちが批判をする国民負担が大きくなって、国、自治体の負担を少しでも減らそうというところから出てきた問題だということで批判をしています。先ほども課長が言われましたように、国の基準があって、基山町はそれでは保護者の負担が大きいかから細区分してということで自主的に値下げになってはいますが、もし国がまだ予算をちょっと抑えていくとかというときに、保護者負担がどんと上がるという可能性が出てくるのではないかなど。そのときに、今の基山の親へ負担をお願いしている分よりも後退することはないですよ。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

先ほど申し上げたように、その基準自体が守らなければならないという基準になれば、従わないといけないと思っておりますけれども、ただ、当然、国のほうもその点は利用者負担についても過度にならないようにということは、これまでの議論の経過を国のほうが情報を出して

おりますので、見ますと、その点も当然議論されておりますので、保護者の負担が過度になるということはないとは考えておりますが、町としてもその点はサービスの後退にならないように十分研究をして決定をしていかないといけないというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

何かしつこく言いますが、介護保険等もだんだん国民負担がふえてきて、国の支出を抑えようとする。そののところともやっぱりこれも一緒になった改革だと思いますので、町としてはそこを重々踏まえられて進めていかれてほしいと思います。

先ほど保育園のところの回答で、最近の傾向として3歳未満児の入園希望者が多いと言われました。新制度では保育事業の策定変更ということで、当然、児童福祉法第24条が基本になりますが、第2項のところ、第2項で適用ということになれば大きな問題が生じるのではないかと思います。例えば、示してある国の進め方の一つですけれども、ゼロ歳児から2歳児までを別建てで、先ほど課長も言われました小規模保育事業として6人から19人までで事業所をつくること、そして運営することができる。その中で問題は、保育士が保育資格がなくてもできるということなんですよ。そういうことですが、基山町はそういうことは考えられていませんよね。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

今回の新制度では、まず、ちょっと制度の中の手続上の問題なんです、各保護者の方が申請をされて、1号から2号、3号認定というふうな認定を町のほうでするようになります。その1号認定は保育の必要がない3歳以上のお子様を、俗に言う幼稚園に通われるようなお子様は1号認定。それから、保育の必要がある3歳以上のお子様は2号認定、これは俗に言う保育園に通われる場合ですね。それから、3号認定というのが保育の必要がある3歳未満児ですので、今、議員がおっしゃったようなゼロ、1、2歳児というのはこの3号認定に係る部分で、ここの児童を預かる部分は保育園とか認定こども園、それと、あと小規模等のそういったところでもこの3歳未満児の3号認定の場合は受けることができるというふうにはなっております。

このことも、例えば、今後の事業計画の中に基山町としてどういったサービスを提供していくのかというのを事業計画に盛り込むようになりますので、当然、ここの部分の検討はしないといけないと思いますけれども、現実的に基山町でそういった事業所は現在はありませんので、サービス提供の有無も当然考慮した上での事業計画になるかと思えます。

ただ、今、保育の内容の分で議員おっしゃいましたけれども、保育士の資格がないとかですね、そういった部分。例えば、小規模の、先ほど言いました保育ママとか俗に言われる方については、1人とか2人を預かれる場合はそういった要件等もないみたいですが、小規模保育の場合はもう少し明確な基準が打ち出されると思いますので、預けられる方が不安を持たれるような保育体制にはならないというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

いろんな基準が緩和されて、そうすると、またいろんな問題が出てくる。現行の基山町の保育行政が後退することのないようにと思います。

回答では低下はないと言われましたけれども、保護者の就労状況で、働く形態で、子供の長時間保育と短時間保育に区分していいようになっていますが、そういうことがもし基山保育園、たんぽぽ保育園で導入されるということになれば、保育が細切れになって随分混乱するのではないかと思います、いかがですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

大都市とか待機児童がいるような地域では、やはり優先順位をつけるために、いろんな点数制にしたりとか、そういったことでそういった部分を設けられて、短時間しか就労されない場合は入所できないとか、そういった状況になっている部分で、じゃ、そういった方をどう捨っていくのか、大都市あたりでですね、そういった方も保育ができるような形にするための制度として、こういった短時間の保育というのでも検討されています。

現在、基山町の場合はそういった条件を設けておりませんので、就労という形で一定時間の就労があればお預かりしていますので、この点は法の中に定められれば、当然、町としても対応せざるを得ないとは思っています。ただ、一定期間の猶予期間というのはございます

ので、その点で少し中身は精査をしていきたいというふうには考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

次に移ります。

保育士の方の条件が悪くなるのではないかと危惧する面もあるのですが、今の保育士の方、若くて、学校を出られて希望に燃えて就職をされて、えっ、もうやめたのというようなことがこのごろ多いんですね。やっぱり保育士の労働条件が今の状態で悪いのに、なおこれが拍車がかかるのではないかと危惧しています。

保育士の勤務については、基山保育園のところでももう一度聞きたいと思います。答えはいいです。

最後の2つ、子ども・子育て会議はあわせて質問しますが、設置目的をお願いします。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

子ども・子育て会議は、これからの子ども・子育て支援に係る内容の部分を審議、各施策ですね、子ども・子育て支援を推進するような施策の御審議と今回の事業計画の審議をお願いしております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

はい、わかりました。

今、事業計画の審議。事業計画は、こども課がつくられるのですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

基山町の子ども・子育て支援事業計画は、こども課のほうで来年度、26年度までに策定をいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

また、それができる段階、できた時点で勉強させてください。

子ども・子育て会議では、今言われました全ての子供がひとしく保育を受ける権利を保障する観点から審議をしていただくようお願いしたいと思います。

いずれにしても、何回も言いますが、この制度は多くの問題を含んでいると私は思います。今後の進め方を見守り、それからまた、この場でこういう質問、少し突っ込んだ、今以上のところで質問をさせていただきたいと思います。

次に移ります。

基山保育園の条件整備についてです。

今回はこども課への集中した質問になりました。きのう、品川議員からも基山保育園の老朽化の指摘がありました。早急に建てかえる必要があるのではないかと私は思っています。その観点でお聞きします。

建てられて38年、耐用年数38年、大規模改修が必要、三拍子そろっていますが、どうお考えですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

それは25年度でたんぽぽ保育園のほうで改築の予定ということで、議会のほうにもその予算を上程させていただいたところですが、その中でも申し上げていますが、やはり基山保育園のほうで築は古いということで、当然、年数もたっておりますし、何らかの手だては必要だというふうには考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

学校もそうですけれども、ほかの一般的な保育園は、玄関を入れて昇降口があって、そして普通の廊下を通過して各教室、各保育室といますか、入っていくと思いますが、基山保育園は、御承知のように、まず、吹きさらしの廊下があります。そして、保育室に入っていくわけです。ある転入してきた保護者が言われたことは、小学校の払い下げの建物かと思った

ということなんです。一般的な保育園の建物のつくりと違って、またゼロ歳児、3歳児未満の子が多くなってきて、そういうことでも、先ほどは何らかの手だてと言われましたが、町長、どう思われますか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

そうですね、まず構造がどうこうということじゃなくて、建てかえるのかどうかというような、その辺も絡んでくると思うんですけれども、しかも、たんぼぼ保育園絡みといいますか、あちらが、先ほども課長言いましたように、少し遅く建てられて、また建てかえるという申し入れがありました。それといいますのも、それを急がせたというか、そうさせたのは、どうもやっぱり国の施策が揺れ動いているといいますかね、その辺のところは私を感じるんですけれども、国が待機児童を解消しようというような、これは立派なことなんですけれども、だから、特別に期限を設けて補助を厚くするということがきっかけで、やっぱりたんぼぼ保育園もこの際というような気持ちがおありだったということでございます。それで、町のほうに、県のほうに申請されて、それじゃ、今のうちにしたほうがかなりの補助が違うからというようなことで、町のほうもそうしようということでやりました。

だから、当然それからすると、その当時、私もやっぱりどこかの時点で、そう遅くないところで基山保育園もやっぱり建てかえるべきだというような感覚でおりましたし、今もそれは思うんですけれども、ただ、本当に国は今度、そういうことは来年度で終わりです、手厚く補助をするというのは。それで、次に打ち出してきてあるのは、これは学校ということでございましたけれども、当然、保育園にもそうなるんだろうと。今までは大体30年か40年ぐらいで建てかえということで、それに対する補助も3分の1ですかね、補助するというようなことでしたけれども、どうもこのごろの報道関係いろいろ見ておきますと、やっぱり長寿命化ということを進めていきたいと。となると、学校建てかえも3分の1とかで建てかえるよりも、もっと補修とか長寿命化のほうで手厚く、それこそかなり手厚く補助しても、そっちのほう为国としては財政負担がないんだと、だから、そっちのほうに行こうと、学校のほうは何かそういうふうな報道を私は目にしたんですけれども、だから、そういうこともやっぱりちょっと国がどういう方針なのかと。それとはまた町は別かもしれませんけれども、そういうことも考え合わせながら、ちょっと動向を見ていきたいなど、そういう気持ちもいた

しております。

構造どうこうというのじゃないかもわかりませんが、それ自体は問題があるのかもわかりませんが、大体今の動きとしてはそうだというふうに私は把握しております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

すっきりと検討せにやいかんですと言われるのかと思っていましたが、何か歯切れが悪かったなと思います。

長寿命化して補修をとということになると、今の保育園の実態を一つずつ、今からどこの箇所をとということを知りたいと思っておりますが、それを全部直す、そして建てかえは先延ばしだということになるのかなと思います。

幾つか修理箇所を言われました。そのうちの一つに建てつけが悪いと言われましたが、どういふ不都合が今生じていますか。

○議長（鳥飼勝美君）

渡邊こども課保育園長。

○こども課保育園長（渡邊 稔君）

現在のところ、建てつけが悪い建具というのは、冬でありますので、大変すき間風が参っております。木造建築でありましたら、当然ながら木製の建具や建物がゆがんできますので、すき間風が出ますけれども、うちの保育園も残念ながら建具が合わなくなっており、ちょっとすき間風が出ております。

それから、やはり老朽化しますので、レールとか戸車がちょっとかたくなって動きにくくなっておりまして、私たち大人でしたらそれほどでもなくても、子供たちがあけ閉めをしますので、ちょっと不便を今のところ来しております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

幾つも修理せにやいかんところがありそうです。

それで、聞きますが、民家でも雨漏りがこっちであったときに、その上が屋根がどうだということではないですね。ここで雨漏りがあったときの原因がどこから漏りよるのかわか

らん、こっちだったとかということはよくあるわけですが、鉄筋の建物の雨漏りというときに、それを改修したら全面的にもう雨漏りはしないということになるんですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

鉄骨づくりで普通の屋根でございますので、一応発注をしたときには、その原因等も含めて調査しながら修繕をさせていただいておりますので、一定の効果はあると。ただ、根本的な部分というのはあれですけれども、雨漏りはそのときで対応できるというふうに考えます。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

何か重箱の隅をつつくようですが、この数年、雨漏りで何回ぐらい改修をされたのですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

平成23年に廊下の雨漏りの改修と、あと24年度でも雨どいというか、雨漏りに関する関係で雨どいの修繕とか、近いところ言えば、雨漏りに関してはそれぐらいですね。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

そしたら、今度、今から先、また強く雨が量的にたくさん降るとか、風とともにというようになときに、また別の箇所でも雨漏りが起こる可能性があるということでもいいですね。

もう1つ言われた内壁の塗装がはがれるということですが、それも改修されていると思いますが、今後まだここもいずれはがれるだろうなというようなところがあるのですか。

○議長（鳥飼勝美君）

渡邊保育園長。

○こども課保育園長（渡邊 稔君）

現在のところ、ちょっと未満児のクラスのほうが少しはげかけておりますので、その近くの壁もやはり可能性としてあると思っています。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

これも改修していただかなければいけないところですよ。

先ほど言われませんでしたけれども、聞くところによると、水道管の老朽化がひどいということ。具体的にはどういうことですか。

○議長（鳥飼勝美君）

渡邊保育園長。

○子ども課保育園長（渡邊 稔君）

水道管、昔に布設しておりますので、実を申しますと、ちょっと破裂をいたしまして修繕をいたしました。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

老朽化というところは、もう全体だろうと思います。ここで破裂、そして、ここは修理したけれども、また別のところで破裂ということは考えられなくはないですよ。

水道管については、全面的にかえるじゃなくて、次に破裂をしたときに臨時的に補修をされるおつもりですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山子ども課長。

○子ども課長（内山十郎君）

当面、大規模改修というふうに、例えば、給水施設全てとなると、先ほど議員がおっしゃったような将来的な建てかえ等の問題も当然明確にしないと、例えば、近い段階で建てかえを予定しているのに全面改修するということになれば、それは二重投資になってしまいますので、現在のところ、将来的にどういうふうな方向性で行くのかというのを明確にしておりませんでしたので、その点で部分的な補修ということで対応させていただいております。

回答の中にも上げさせていただいておりますが、子ども・子育て支援事業計画の中で、今後そういった供給量としてどれだけ必要なのかという数値も当然定めてまいりますので、そうなりますと、今現在のところ、たんぼぼ保育園が140名の定員で運営をしていくというこ

とでなっておりますので、それでは、基山保育園として何名の定員で運営をしていくのかというのも当然明確にしないとイケませんので、それを含めたところの規模として基山保育園をどうするのかということを検討していかないといけないというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

今の事業計画の中では、ちょっと後に置いておって、まだ補修、改修の場所があるので、きのう品川議員が言われました床暖房の修理はされるのですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

それにつきましても、床暖房の配管等がどこにどういうふうなふぐあいがあるかというのを全面的に調べて修繕するのであれば、全面的な補修にもなってくるかと思っておりますので、それについても現在のところ修繕の予定はございません。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

床暖房がきかなくなったからエアコンで対応しているというふうに聞きましたけれども、園児の一日の活動で割と大きなスペースを占めるのはお昼寝の時間なんですよ。冬の場合ですね、上から入ってくるのと、布団、寝ていて下からほかほかと、やっぱりここは床暖房をするべきではないですか、子供のためには。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

環境としては、やはり床暖房のほうがベストということでこれまでも基山保育園としては床暖房を入れたところで運営をしてきたところでございます。

ただ、今、議員おっしゃるように、やはり床からの暖房ということで、今度の冬については低年齢のところにはホットカーペット等も使いながら保育を実施してきたところでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

今、幾つも指摘しました。幾つも回答いただきました。これらを大規模改修するよりも、早急に建て直すほうが経費の面でもいいかと思いますが、再度、町長どうですか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

先ほど申し上げたのも、その辺の含みもあって、本当に全部やりかえたほうが、初めから建てかえてやったほうがいいのか。それとも、改修といいながらも、それこそ大規模改修になろうと思います。それをやったほうがいいのか。それから、国の補助が本当に今まで来ておった分、確保できるのか。むしろそれを削るというような方向にならないのかと、そういう心配も私はしております。片や補修のほうだったら、7割か幾らかというようなだっただすかね、かなり優遇されるというような話もちよっとあるものですから、その辺はやっぱり両方見ながら、どちらが町としてプラスなのかという検討もこれから必要になってくると思います。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

検討を本気になって考えてほしいと思います。どうぞよろしくお願いします。

ただ、大規模改修になったにしても、また移転を含めてのことになったにしても、今いる園児たちが困らないように、少しでも快適な園の生活ができるようにということを考えなければいけません。今、幾つか補修が必要なところを洗い出しましたが、新年度、補修、改修の何か優先順位みたいな、ここはまず直そうというのがありますか。

○議長（鳥飼勝美君）

渡邊保育園長。

○こども課保育園長（渡邊 稔君）

とりあえず建具を優先したいと考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

先ほどたんぽぽ保育園が140人、そして、今、基山保育園は250人、だけれども、この数年、定員を満たされていないですが、初めに言いました支援新制度の兼ね合いの中で基山保育園の定数も検討されていくと思いますが、ここで、回答のところで待機児童が問題だとおっしゃいましたが、それは基山保育園の場合はないですね。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

全体的な待機はないように、今、申し込みについては可能な限り応えられるようにしております。

ここで申し上げている待機を出さないというのは、その後の回答で申し上げたように、3歳未満児のお申し込みがあった場合ですね。例えば、4、5歳児であれば、1人、2人の枠というのはまだあるんですけれども、未満児、特にゼロ歳児とか1歳児は3人に1人の保育士だったりとか6人に1人の保育士とかですね、保育士の手配というのが当然人数によっては必要になってまいりますので、そういう意味で、そこに応えられるような体制をつくっていくということで、この待機を出さないということでのお答えをさせていただいております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

保育士の手配ということが本当に大変なんだろうなと思います。250人定数のときに、保育士がこのごろ臨時の方がふえてきていますが、もし臨時の方がいなくて正規職員だけの場合、総枠、園長も含めて何人ですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

いろいろ枠によって違いますけど、今のお預かり、2月の段階で225名のお子さんをお預かりしております。そこに保育士の配置としては26名の配置をしておりますので、現人員が13名しかおりませんので、保育士としては26名の配置が必要であるというふうに考えており

ます。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

正規職員なら26人。だけれども、13人。あとの残りの13人については臨時の方ですけれども、13人の方が正規の方と同じ時間ということにはないと思いますが、ローテーションを当然組まれていると思います。登録されている方だけではなくて、ローテーションにはっきり名前が組み込まれている方は何人ですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

今現在、保育士のほうが37名の方で、それぞれシフトを組んで勤務に当たっていただいております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

臨時の方が細切れに入られるということになる、必然的にそうなるのではないかと思います。やはり正規の方がたくさんいらっしゃるほうが園の運営としては当然いいと私は思います。今後も、例えば、この正規の13人の中で誰かがおやめになるというときに、臨時で対応されますか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

保育士の数は確保をお願いしたいと思っておりますので、正規職員での対応をお願いしたいというふうに担当課としては思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

どうぞ正規の職員がですね、欠員になって、かろうじてまた現状維持ということではなく

て、14人、15人、20人ということを望みたいと思います。

基山町の将来を担う子供たちへのよりよい保育を提供することが、基山町の子育て支援のところではとって大切なことだと思います。今後とも充実した保育行政をお願いして、私の一般質問を終わります。

○議長（鳥飼勝美君）

以上で大山勝代議員の一般質問を終わります。

ここで11時20分まで休憩します。

～午前11時8分 休憩～

～午前11時20分 再開～

○議長（鳥飼勝美君）

休憩中の会議を再開し、次に、林博文議員の一般質問を行います。林博文議員。

○11番（林 博文君）（登壇）

皆さんこんにちは。11番議員の林博文でございます。3月議会一般質問、きょうは休日の日曜日で開かれた議会として休日議会を開催しております。傍聴者の皆さん方、大変ありがとうございます。

それでは、通告をいたしておりました私の一般質問、きょうは質問事項2項目について質問をさせていただきます。

1の土地開発公社の運営について、2の基山町の公共施設及び町有地の有効活用についての質問をいたします。

それでは、質問事項1に入ります。

土地開発公社の運営について、(1)、質問要旨ですが、基山町の土地開発公社、これは何をするために設立されたのかということ、アの事業内容の目的。

次に、何年にこの開発公社というのは役場内に設置されたのかということです。

次のウについては、開発公社はこれまでどのような事業運営に携わってこられたのか。

また、土地開発公社が現在保有している財産（物件）の取得の時期、面積は現在どれくらいあるものか教えていただきたい。

次に、オの土地開発公社の役員体制はということで、役員が理事会、理事、理事長、それぞれおられるかと思いますが、その役員体制を教えていただきたい。

次に、土地開発公社の資金運営はどのように運営されておるのかということで、借入金な

り、また預貯金等があるかと思いますが、教えていただきたい。

私の記憶によりますと、平成11年に土地開発公社が役場西側の所有地、現在、古自転車の置き場になっておるところですが、図書館用地として先行取得した土地に図書館が建設されなかった理由、また、今後この土地についての有効活用はどのように考えているのか、進めるのかということであります。

それと、この用地については図書館用地として取得されておるわけですが、いろんな規制法もあるかと思いますが、用途の変更ができるのかと。その当時は、補助金とか都市計画審議会、いろいろ問題点もあったかと思いますが、図書館用地については中央公園ということで決まっておりますのでもう必要ないわけですが、その当時の用途の変更ができるのかということでございます。簡単にできる土地ではないと私は思っております。

次に、この土地の価格は取得時の、買ったときの値段ですね、から相当下がっておる、今回の土地開発公社の皆さん方、議員の皆さん方も全員持っておられますが、報告事項の中で上げておられます約12億3,000万円近く of 物件が公有地としてあるわけですが、その物件の評価がえなどは検討する必要はないのかということでございます。

次に、土地開発公社はもう本当どこの市町村もですね、ようらこれはほったらかしてそのまま土地開発公社が40年も幾らもなっておるといふふうに思いますが、どこの市町村もこの土地開発公社といったらもう解散をされておるところが多いわけですが、解散をされない理由があるのかなというふうに思いますが、解散の時期と思うが今後も継続していくのかということでございます。

次に、質問事項2の公共施設及び町有地の有効活用について。

同僚議員からそれぞれ、きのうなり、きょうなり、いろんなところが出ておりますが、(1)について、このことについて質問をさせていただきます。

(1)の社協が福祉交流館へ移転後、旧役場跡地を人口増対策として、前にも12月の議会でも町長言われておったようですが、町はどのように今後進めていくのか。もうちょっとやっぱりスピードを上げた中で取り組んでいただきたいということです。

次の(2)の旧公民館の老朽化についての、ここの施設もでございますが、この旧公民館は本当に改修するに至らないと見受けられます。現在どのような利用をしているのか、また、この旧公民館の有効利用はどのように今後進めていくのかということ、私は何回もここの前をよく通ってちょっととめて見るわけですが、西側は草ぼうぼう生えておる、中は物置に

なっており、これは、施設として必要とするなら、もう少しきちんとした管理ができないかということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、質問要旨(3)の町有地はあちこちあるわけですが、いつも町長は当面の課題は人口減少を食いとめるんだというのをよく口に出されますが、私は、企画政策課長なんかも、宅地分譲を民間会社がよくしておるわけですが、いまだにやっぱり基山は交通の要衝であつて、宅地については足りない状況だというのを口にされますが、確かに建設関係の民間会社が宅地分譲をしておるわけですが、もう少し町もそういうような遊休地を宅地分譲開発を推進して人口増対策に役立ててもらったらどうかなというふうに思ひます。それについては歴史民俗資料館の敷地、また土地開発公社が保有する庁舎西側、先ほどの分ですね。それと土地開発公社から、この土地については町が土地の買い戻しを行う必要があるかと思ひますが、その手続はどのようにしたらよいのかということで、やはりもう図書館用地が中央公園に決まつた以上は、ようらもつたいない土地でありますので、早速取りかかつていただければというふうに思ひます。

また、このほかにもやっぱり、次のときにも一般質問をしたいと思ひますが、神の浦のため池の敷地の右側、左側の土地ですね、道路の右。あれもやっぱり有効利用していただきたいということでございます。

そういうことで、以上で1回目の質問を終わりますので、御答弁のほうをよろしくお願ひをいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）（登壇）

林博文議員の御質問にお答申申し上げます。

まず、1項目めは土地開発公社の運営についてでございます。

(1)現在の基山町土地開発公社の運営について。

ア、事業内容の目的はということです。公共用地、公用地等の取得、造成、処分等を行うことにより、基山町の秩序ある整備と振興に資するということでございます。

イの何年に公社は役場内に設置されたのかということですが、昭和48年でございます。

ウのこれまでどのような事業運営に携わつたかということです。庁舎、町民会館、総合公園等の公共施設や、都市計画道路等の道路用地等の用地の先行取得に携わつてきております。

エの土地開発公社が現在保有している財産の取得時期、面積等はどうお尋ねです。平成11年4月20日取得の基山町大字宮浦763番地1が535平方メートル、平成12年3月29日取得で同じく宮浦759番地の1、1,998平方メートル、平成13年9月13日取得で宮浦761番地1、2,608平方メートル、平成13年9月13日取得、宮浦766番地の2、857平方メートルの合計5,998平方メートルでございます。

オの土地開発公社の役員体制はどうでございますが、理事長、副理事長、常務理事、各1名、その他の理事3名、監事2名でございます。

カの資金運営はどのようにしているかどうでございますが、本年度末で借入金8,021万4,000円、現金及び預貯金64万426円の、これは予定でございます。

キの平成11年に土地開発公社が図書館用地として先行取得した土地に図書館が建設されなかった理由、また、今後、有効活用はどのように進めるかということです。取得時は庁舎西側の土地を図書館用地として見込んでおりましたが、今回の検討委員会の報告では中央公園内が最も望ましい候補地とされ、町といたしましても中央公園内が最適であると決定したからでございます。有効利用については今後検討していきたいと思っております。

クの図書館用地として取得されているが用途の変更等できるのかどうでございますが、図書館等用地からの変更は可能でございます。しかし、あくまでも相当の公益性、または公益性を有する目的のために使用する必要があるため、その変更範囲は公有地の拡大の推進に関する法律第9条に規定されております。

ケのこの土地の価格は取得時の価格から下がっていると思うが、物件の評価がえ等を検討する必要はないかということです。周辺の売買実績から考慮しますと、それほど簿価の評価がえを行わなければならないという状況にはありません。

コの土地開発公社は解散の時期と思うが今後も継続していくのかどうお尋ねです。現在、その必要性及び代替制度の活用等を考慮し、土地開発公社と協議しながら検討をしております。

2項目め、公共施設及び町有地の有効活用についてでございます。

(1)社協が福祉交流館へ移転後、旧役場跡地を人口増対策として町はどのように進めるのかどうでございます。旧役場跡地については、旧役場跡地周辺全体の活性化のために、どのような活用法がよいかも含めて検討しなければならないと考えております。

(2)は、旧公民館は老朽化が進み、改修するに至らないと見受けるが、現在どのような利

用をしているのか、また、この旧公民館の有効利用はどのように進めるのかということをご
ざいます。2階部分につきましては、まちづくり団体に年間を通して貸し付けをしておりま
す。1階部分については、文化財の出土品の一時仮置き場及びリサイクル品の仮置き場とし
て利用しております。旧公民館跡地については、その相当の部分が実松川の河川改修にかか
りますので、活用は難しいのではと考えております。

(3)町有地に宅地分譲開発を推進して人口増対策に役立てよということで、アの現在の歴
史民俗資料図書館敷地はどうかということですが、実松川の河川改修計画区域内にあります
が、それまでは文化財出土品の収蔵庫や、修復等の作業場所として活用したいと考えており
ます。

イの土地開発公社が保有する庁舎西側の土地はということです。当該用地は市街化調整区
域でもありますし、高圧線もあるなどさまざまな問題もありますので、住宅地として適地で
あるかも疑問ですので、困難ではないかと考えております。

ウの土地開発公社から土地の買い戻しを行う手続はどのようにしたらよいのかというこ
とでございますが、これは基山町より公用地としての取得の申し出が必要でございます。

以上です。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

それでは、2回目の質問に移らせていただきます。

この土地開発公社の運営については、答弁がありましたように、公共用地等の取得、造成、
処分、そういうようなことをするために設立されて、昭和48年に役場内に設置されたという
ことで、もう40年近く、40年になるわけですが、この間、確かにこの庁舎の周りですね、皆
さん方も御承知のように、庁舎、町民会館、総合公園、公共施設や都市計画道路の道路用地
の先行取得で携わってこられたということで大変な御苦勞があったと思います。

そういうことで、この土地開発公社が40年も経過して、現在は、次の土地開発公社が保有
している財産、この取得時期なり面積については4筆の回答があったわけですが、この4筆
の土地についてはどこの土地ですか、わかりますか。

○議長（鳥飼勝美君）

企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

どこの土地とおっしゃいますと、場所のことですか。（「そうです」と呼ぶ者あり）場所は、庁舎の調整池を挟んで西側のところの土地でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

そういうことで、これが答弁では平成11年4月から取得をなされております。そのときに携わっておられた課長がおられるかなというふうに思うわけですが、これについては、前の町長ですね、天本町長が平成11年に、鳥栖・基山都市計画の変更説明会を平成15年10月24日に町民会館でされております。この土地全体の、この4筆については5,998平方メートル、先ほど回答がありましたが、全部が役場西側の図書館用地としての取得ということに資料ではなっておるわけです。この用地取得のときが庁舎、町民会館、保健センター、総合体育館、多目的運動場等の公共施設に隣接した庁舎西側を平成9年度に図書館用地として交渉すると、地権者との交渉にかかると。そして平成11年度から13年度にかけて土地開発公社が先行取得すると。町長が平成12年3月の基山町議会のほうで選考した用地に平成17年度からを目途に図書館を建設するというのが、今残っておる土地開発公社が保有している図書館用地として交渉した土地の約6反ですね、6,000平米であります。

そういうことから見ると、15年近くがたっておるわけですが、その中で次の土地開発公社の役員体制については、理事長、副理事長、常務理事というような形でそれぞれしておりますが、この理事長、副理事長、常務理事の名前が挙げられましたら教えていただきたい。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

現在ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）現在は、理事長はうちの町長の小森が務めております。副理事長につきましては山本茂夫さんでございます。それから、常務理事につきましては大石実さんでございます。それでよろしいですか。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

私が言いたいのは、この土地開発公社の理事、今、町長が理事長であって、ほかの民間からの登用というのは3人だけで、あとは全部役場の職員なんですよ。こういうふうな人事関係の役員体制の選考というのは、どういう基準でこういうのをされておるわけですか。だから、あそこはようらほつたらかしとってそのままにしておるのかなということで、総務課長なりが入っておるわけですが、その点どんなですか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

済みません。残りの3人につきましては、お二人は民間の方でございます。確かにうちの総務課長が入っております。これにつきましては、昔の経緯を知ってあることから地元の人がいいだろうということで、そういうことで選考はしております。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

私は、民間であってこういうような開発関係とか、基山町長が基金関係、後で基金関係も質問いたしますが、町長が管理しておるのに、理事長がまた町長だというような形で残高証明なり、貸付証明なり、町長がこれ出すわけですよ。ちょっとおかしいような感じがしますが、町長、ほかの開発公社、例えば土地開発公社とか、それから土地の区画整理事業組合なんかは別な方が理事長なんかなされておると思いますが、抵抗はなかったですか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

私も町長になってすぐ開発公社の理事長ということでございましたから、そこには特段、組織的にそういうものかなと、業務的にそういうものかなというようなことで違和感はその当時はございませんでした。ただ、やっぱりだんだん年数たってくる間に、その必要性があるのかなというような、そういう疑問は確かに感じてはおります。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

もう長年が過ぎたわけで恒例になっておったというところもあるかと思いますが、後で解散の時期というような形で、もう役目も済んだというような形と私は判断します。そういう方たちから、もう解散すべきじゃないかというふうに、後で質問をいたしておりますが。

次の質問については、土地開発公社の資金運営はどのようにしておるのかということで、前は、財政課長来ておられますのでわかるかと思いますが、土地開発関係の26年度の資料に土地開発基金が現在これ幾らありますか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

24年度決算が済んでいまして、25年度の決算はまだですので、24年度の決算のデータを申し上げますと、現金で2億509万6,000円、それから貸付金としまして、先ほど町長が答弁をしました8,021万4,000円、それから、土地の簿価として6,600万円ほどございます。

以上です。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

議員の皆さんも、26年度の一般会計、基金の8ページのほうで、この2億8,000万円ばかり土地開発公社の基金が資料として上がっております。その中から8,021万4,000円を開発公社に貸してあるわけです。それが本年度で借入金で8,021万4,000円。これ8,021万4,000円というのはもう15年以上になるわけですね。そのままようら来ておるわけです。土地を取得したときに借ってあるわけです。そういうことから、何でこんなのを整理しないのかなというのが1点ですが、そういうことで、後で買い戻しができないかというような形を出しておるわけです。

次のキについては、平成11年度に土地開発公社が図書館用地として先行取得した土地に図書館が建設されなかった理由、また今後、有効活用はどのようにここについては考えておるのかということで、役場西側の庁舎については、確かに先ほど言いました4筆は全部図書館用地として買われた、平成11年から13年までですね、約6反の分です。

そこで、本来ならばここに図書館が建つ用地で取得されたわけですが、私はその建設されなかった理由を聞いておるわけですが、私はそれなりに、ヒアリングとかそういうのに出た

考えと、一番初めに公聴会なり、また説明会がこの取得をするときに相当な意見が出たわけですね。現在までの図書館のその用地に対しての取得なり、また県のほうからのまちづくりからの公聴会についての案内なり、そういうことでスケジュールが基山町の都市計画審議会等も16年の1月下旬にかかっているわけですが、その理由を私は聞いておるわけですが、どんなですか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

平成11年のときの理由ですか。（「違う、違う。図書館用地として買うたのにね、最終的に建てられなかった理由」と呼ぶ者あり）ああ。（「いろんな説明会のときやら出たやんね、ここは例えば……」と呼ぶ者あり）

○議長（鳥飼勝美君）

林議員立ってから。

○11番（林 博文君）

例えば、高压線の下で電磁波がつくからここはでけんとか、そういうのが理由に上がったじゃなかですか、それを聞きよつと。これは一つの例よ。

○議長（鳥飼勝美君）

わかりますか。町長が一番詳しいんですか。小森町長。

○町長（小森純一君）

私の知るといいますか、わかるところを申し上げますと、図書館建設検討委員会が2度行われております、つくられて検討をされております。それが十何年前ですかね、約10年ちょっと前に検討していただいて、そのときもやはり余り適当でないと。そのときには今おっしゃいましたように電磁波の問題もちょっと出ておりましたけれども、それだけじゃなくて、余り適当じゃないというような判断が出ておったと思います。

そして、それから、建設自体をどうしようかというようなことで考えましたところ、小学校建設とも重なるものですから、同時にはちょっとどうかなということで先延ばしをして、そして一昨年ですか、また、建設検討委員会ということで立ち上げて検討をしていただきました。そこでもやはりいろいろ生活導線、学校の近くとかなんとかというような、そういういろいろなものがございまして、そこでの検討委員会でも、むしろ中央公園というようなこ

とでございました。それらをあわせ勘案しまして、町としてもやはり中央公園がいいんだろ
うということでそういう決定をしたということでございますので、建てなかった理由として
はそういうことでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

何か別に記録はありますか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

平成16年2月の図書館・資料館の建設に関する答申書の一部がありますので読み上げさせ
ていただきます。

「検討結果といたしまして、現在の建設予定地は、基本的に建設条件の多くを満たしてい
ない。図書館・資料館は、どの公共施設より幅広く町民に利用される施設であり、利用しや
すい場所にあることが第一の立地条件である。たとえ十分な施設であっても、建設場所によ
っては利用者の減少、特に児童・生徒及び高齢者の利用減が考えられる。あらゆる人に利用
されてこそ生きた図書館・資料館になり得るので、利用者の立場に立った建設場所につい
ての一考を望まれるという検討結果が最終報告でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

そういうことで、図書館用地が変更されたということで、私もそれなりには記憶をいたし
ておるところでございます。要は、この用地をようらやっぱり15年も20年もほったらかして
もったいないなど、自転車置き場と、そういうようなことがヒアリングの中でやっぱり、図
書館用地として不向きだというような意見が出るなら、早急に解決をしていただきたかった
というふうに思うわけです。

次に、この用地については取得された用途の変更などができるのかということで、これは
先ほどから言いましたように、都市計画区域内の説明会なり公聴会であったと私は記憶をい
たしておりますので、簡単にその用途が変更できるのかというふうに思うわけですが、先ほ

ど答弁がありましたように、図書館用地から変更は可能です。しかし、あくまでも相当の公益性、または公益性を有するための目的に使用する必要がある、この土地についてはですね。

ここで上げております相当の公益性、または公益性を有する目的のために使用する土地じやなからんとだめだというような見解ですが、これはどういうふうな意味ですか。公益性なり、公益性を有する目的のためにしか使われないという意味は。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

ちょっと一言だけ誤解を招いたらまずいで申し述べますが、西側用地につきましては図書館等用地でございますので、図書館に限ったことではございません。それから半分ぐらいはいわゆる児童館等用地になっておりまして、そういうことも入っております。

それから、今の質問の件ですけれども、いわゆる簡単に言えば、公有地ですか、公共機関が取得するような用地というふうに考えていただければよろしいかと思っております。民間への売買というのは前提にはなっておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

確かにこれは、市街化調整区域から都市計画法のこういうふうな説明会なり公聴会を開いて、現在の都市公園整備計画の中の一環として面積に入れられたと思いますが、その変更範囲は公有地の拡大の推進に関する法令第9条に規定されておりますということですが、この第9条というのはどういうふうな規定からその縛りがあるわけですか。

○議長（鳥飼勝美君）

企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

ちょっと条文を持ってきておりませんのであれですけれども、考え方としては、都市計画法上の利用と、もう1つは代替地という利用。そしてもう1つは、その他政令で定めるものということでいろんな利用法が書いてありますけれども、その中を見ておきますと、いわゆる公益性のある事業に使うということ、そういうときに公共機関が使うときに用途変更がで

きるというふうになっております。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

そういうことから、この土地の今の役場西側については勝手にどんどん売ったり、次の開発関係はなかなか難しいということで、先買いた土地ですね、先行取得した土地の管理ということで、第9条、これはちょっと資料をもらったわけですが、これらについても、今課長が言われましたように、簡単に用途変更なり、また売買なり、そういうのができないような縛りが、この9条の中には書かれてあります。例えば、都市施設に関する事業とか施設に、その代替地に充てるとかですね。それからまた、買い取られた日から起算して10年を経過した土地にあって都市計画の変更、買い取りの目的とした事業の開始、または変更、その他の理由によって将来にわたって代替地とか、あるいは公共施設関係で町が計画変更した場合には使っていいというような形で、これに書かれておるようです、第9条第1項から見てみるとですね。

そういうことから見ると、次の質問の中では、この土地の価格が今回、開発公社の資料を議員の皆さん方もみんな持っておられる、報告第1号の資料の中に25年度分が上がっておるわけですが、その中の16ページを議員の皆さんも見てもらったらわかると思いますが、この中で公有用地というような形で1億2,155万8,723円というのが今までに説明された図書館用地としての公有用地の流動資産、資産の部ですね、その中で上がっておるわけですが、これについて間違いはないですね。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

今、読み間違いかと思いますが、金額が1億2,155万3,724円でございます。はい、間違いございません。（「はい、わかりました」と呼ぶ者あり）

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

多額のお金なんですよ。というのが、私が言いたいのは、この土地の価格は取得時の価

格から相当下がっておると思いますが、そこで答弁では、周辺の売買実績から考慮してというような形で、これは誰が書いたんですか。町長はそげん思うわけですか。この金額は6,000平米ですよ、6,000平米で1反が2,000万円からする金額になるわけですよ、これを試算したら。確かに簿価でこの1億2,155万3,724円というのは、議員の皆さんも資料を持っておられるように、毎年8億円の利息の分を加算した金額がこの金額の中に上がっておると思いますが、そうでしょう。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

毎年36万963円の利子を払っておりますので、その分が積算されております。

それから、周辺の実売価格というのは、うちのほうが土地取引というんですか、その監視の部分の委託事業も受けておりますので、周辺土地で実際に売買された価格からすると、それほど差があるものではありません。

それから、価格の見直しにつきましては、簿価より半額、実売が半額以下になったときは見直すのが原則というふうにされております。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

周辺の売買実績から見てというような形から見れば、これは本当に役場西側というのは今でも調整区域であって、これは周りは竹やぶなんですよ。そういうのを坪6万7,529円にこれなるわけですよ。

先ほどから、27年3月31日現在の貸借対照表の中で出ておる1億2,155万3,723円、これは毎年、さっき言いました8億円の利息の分が加算されて、8億8,021万4,000円の分ですね。この分の利息の分を毎年ずっと15年間も加算された簿価の金額ですが、これが例えば民間会社とか誰かに代替地で売るときは、この金額を頭にして交渉し、売買しなくてはならないと私は思っておりますが、その点どんなですか。こんな高いとですよ。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

先ほども申しましたとおり、皆さんの考え方もあろうかと思えますけれども、周辺の売買価格の実例を見ますと、非常に価格が下がっているという発想は持っていないところでございます。

それから、当然、簿価というものは一つの価格を決める基準ですので、それは一つの基準ということにはなり得るかというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

私が言いたいのは、役場西側のあの竹やぶの今自転車のあるところをですね、今のこの金額から見ると、例えば、売買して解散したときに、ほかの土地を売るといようなことになれば約7万近く、坪ですよ、7万近くで売らないと帳簿が消えないといような形に見るわけですが、ちょっとおかしいんじゃないかというふうに思うところです。

それから次が、土地開発公社は解散の時期と思うが今後も継続していくのかということで、総合公園、これは総合公園の一環、先ほどから言いました、町長がいろんな庁舎なり町民会館、総合公園等の公共施設や都市計画の道路関係の用地の先行取得に携わってきたといような形で、そういうふうな仕事から見れば、もう土地開発公社は解散の時期、まだ何年前も解散をしてよかったんじゃないかというふうに思いますが、どんなですか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

土地開発公社につきましては、今まで解散しなかった理由というのは、まず図書館用地がまだ残っておりますし、そこに建てるという前提がありましたので、まだそこができなかったわけでございますけれども、今回、図書館は中央公園に建てるということが決定いたしましたので、あと西側土地の処分が決まれば、今、林議員おっしゃいますように、今後どうしていくかということは検討の必要があるというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

ひとつ前向きのほうでしていただきたいというふうに思うわけですが、要は今まで土地開

発公社の、それぞれ23年度なり24年度の事業報告書及び決算諸表というような形で1年間を、6月議会のときに土地開発公社からこういうふうな資料をいただいて、諸表、総務に関する事項とか、そういうふうな中で、何をしたかというような形で1年間をされておるわけですが、理事会は年間に何回ぐらい開いてあるわけですか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

理事会は年2回でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

その理事会の2回の中で、この資料の中から見ると、平成24年度の基山町土地開発公社事業報告ということで、開発公社が実施した事業の概要を次のとおり報告しますということで、用地の取得はなし、2、用地の売却もなし、3、その他なしというような形で、理事会の開催がなされておることを、やはり23年度、24年度、25年度、まあこれからですね、事業計画なり報告なりがあっておりますが、全て金額も動いていないと。今回についても2,000円が1,000円の貯金利息がつくと、または8,000万円のその利息が先ほど言いました公有用地にひっかかっていくと、転嫁されるというような形だと思います。そういうような形から見れば、私は、何でよその市町村なんかも、開発というのはもう必要ないんじゃないかというふうな形で、解散が早められなかったかなというふうに思うところです。

また、監査委員の会計管理者の天本さんの印鑑も出ておるわけですが、監査報告書の中で、何か特別指摘する事項、また解散についての協議、ここで言う24年度で、24年4月23日に土地開発公社、町有地の買い戻しについて基山町への依頼とか、あるいは総務省からヒアリングをされたときの指定事項なんかについて通知がこれに上がっておりますが、その件について監査時点では何か会計管理者、思ったことがありますか。

○議長（鳥飼勝美君）

会計管理者。

○会計管理者（天本政人君）

今、議員がおっしゃられたことにつきましては、説明は受けておりますが、その内容につ

いては、今後、開発公社をどうしていくのかとか、長期保有の土地についての協議については理事会の中で十分協議していただくようにという話はしていましたが、それ以上のことはございません。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

何で今まで放っておいたかと、解散を考えなかったのかというようなことのようにございますけれども、やはり図書館用地というような取得目的というか、最初ございましたし、ちょっと不向きだなというような1回目の検討委員会、図書館の検討委員会の中でも出ましたけれども、じゃ、本当にあそこがだめなのかと。じゃ、どこに持っていくんだというような、その決定がない中ではやっぱり公社の解散はできないということで、内々には目的もなくなった、財産も処分できるということであれば、もう必要ないだろうというような話はしてありました。理事会の中でもそういう話もちょっと出たということは、ここずっとありましたし、ただ、本当にこれから先解散して、そういう先行取得というようなケースはもう皆無なのかというようなその辺の問題、それから、それにかわる何か方策はどうなんだというような、そういうことも企画政策課では検討をしておいてありますので、いよいよその時期かなというような気持ちは持っております。しかし、あくまでもこれは理事会の決定ということになりますので、その時点ではっきりさせていただきたいと思えます。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

この解散については前向きのほうに検討していただきたいと思いますが、土地開発基金、先ほどちょっと財政課長にお聞きしましたが、この土地開発基金から約8,021万4,000円を土地開発公社のほうに、年利率0.14%ですね、それが36万円の利息が毎年ついておると、それが、先ほどから言いました1億2,300万円に転嫁されておって、土地がずっと上がっておるといふような形ですが、解散した場合に、今までの土地の先行取得とか、そういうふうなところをしていこうとする場合、この基金の2億8,000万円から直接は運用されないわけですか。土地開発基金が2億8,000万円からある分のこのお金というのはどういう用途に使われ

るわけですか、財政課長。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

土地開発基金条例をちょっと読んでみますと、「公用若しくは公共の用に供する土地又は公共の利益のために取得する必要がある土地をあらかじめ取得することにより、」ということとで目的が書いておりますので、目的としましては、開発公社と同様の目的で設置をされた基金ですけれども、大きく違いますのは、土地開発基金の場合は自前で積み立てた基金の中でそういう事業をしていくということが公社と基金の決定的な違いでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

私は、こんな大きな金額があると、2億からあるお金ですね。このお金の資金源というのは、このお金はやっぱり土地を先行して安く買ってあって高く売ったから、こういうふうに残高がふえてきたわけですか。大体公共施設関係についてはもうかっちゃいかんような形になっておりますが、これはどこからこのお金は来たんですか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

これは当時、昭和45年か46年に交付税措置がされまして、基金に一般会計から積み立てをしたものでございます。

それから、今まで事業を行ってきましたけれども、土地開発基金のその事業のやり方としまして、取得をして売買をしますけれども、その取得した時点から売買までの利息を取るようになっていきますので、その利息分で現金が生じてきているものと考えます。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

私は解散をして、この土地がこれだけあるから土地開発基金として、今の利息の8,000万円もこれにまた入れば運用ができるんじゃないかということ。

ちょっと時間の関係で次に移りますが、(2)の公共施設及び町有地の有効活用については、もう同僚議員がそれぞれ旧役場の跡、公民館なり、出ておったわけですが、やはり基山町は、町長、ちょっとと思いますが、自分の所有の財産について考えたことがありますか。例えば自分の、本当に土地にしても建物にしても自分の財産であれば、早急にやっぱりこういうのは取り組まなくてはいけないというふうに、また人口減少を食いとめるというような形であれば宅地開発等も進めなければいけないと思いますが、個人だったら固定資産税が、町のいいところばかり持ってありますので、固定資産税なんか高くついて維持しきらない状況が続くわけですが、その点どういうふうに、あちこち町長はあるわけですが、その点どういうふうに思われますか、町長は。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

あちこちにあるというのは町有地がということですよ。（「そうです。そうすると、固定資産税を自分のものに」と呼ぶ者あり）私は個人的にはそんなあちこち持っておりませんので、固定資産税がどうこうという話じゃないんですけれども、それは確かにそのままほっておくというのは、もし持っていたらほっておくというのはちょっともったいないかなというような気がしますし、活用したいという気ではございますけれども、だからといって、そんな余りニーズもないのに、たたき売りじゃないですけれども、それを処分するとか、無理に何か建てるとか、そういうこともいかがかなと、私個人でもその辺はやっぱり機を見て、それなりのことで、考えでやっていかなきゃいかんとは思いますが。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

時間があれですが、要は、ここの2で上げておりますように社協が福祉交流館のほうに移転の後、旧役場跡地ですね、私も写真をずっと撮ってきたり、今はリサイクル資源なんかをあそこで集められたりしてあるわけですが、また保育園の前についても、これはプレハブが2つありますが、これは本当に散らかしっ放し、1つは2階はきれいしてありましたが、ボーイスカウトとか、2階は基山町の緑の少年団、それとガールスカウトの事務所になっておりますが、先ほどからその共同についてのそういうふうなのに使っておるということでした

が、これは用途が違うんじゃないですか。例えば、ボーイスカウトとか緑の少年団とかガールスカウトの事務所に使われておるようですが、ここを何か1つにまとめられて、やっぱり保育園の駐車場とか、そういうのに私はされたらいいんじゃないかと思いますが、その点どんなですか。

○議長（鳥飼勝美君）

答弁は誰ですか。城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

先ほど町長がお答えをしていますのは、旧公民館の1階部分については、公民館とか図書館とかでブルーシートをかけて野ざらしになっていた文化財の出土品ですね、あれの一時置き場としてあそこの旧公民館の1階のほうに置かせていただいております。それから、たんすとかのリサイクル品ですね、その一時置き場としてあそこを使わせていただいているということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

今、私が言ったのは基山保育園の前の分で、前の図書館跡地の西側の分ですね。それと、旧公民館、今この施設はどこの課が管理しておるわけですか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

あれは普通財産として財政課が管理をしています。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

課長は、例えば、西側に草がいっぱい生えておりますね。そういうのを見に行かれたことはありますか。また、中に、私も何回もあそこを通るわけですが、いつも鍵がかかっておるというような形で、さっき言いましたリサイクル関係の鏡とかたんすなんかがあちこちに置いてあって、売却済みとか、確認済みとか、そういう札が上がっておるわけですが、こういうのは誰が管理して、そういうふうなリサイクル関係の処分はいつされるわけですか、もう

大分長くなりますが。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

駐車場の草にしては、なかなかあそこを実質使っておりませんので、時々見ることは見ますけれども、管理の面では若干見ばえが悪いというのは認識をさせていただいています。

それから、駐車場に鎖をしていますけれども、違法駐車とか、近隣の方、駐車スペースをわざわざ自分たちで用意をされている方もいらっしゃいますので、なかなか駐車場に常時使っていただくというのも許されませんので、ロープは張っているという状況でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

林議員。

○11番（林 博文君）

あと旧公民館跡地とか役場跡地、そういうようなのは今後、いろんな方が一般質問をされましたので、ひとつ早急にですね、もう何回も検討、検討、協議をします、協議しますだけじゃなくて、やはり民間開発関係にも話を進めて、よければ私は早くこういうふうなのは取り組んでいただきたいというふうに思います。

あと、(3)の町有地、宅地分譲開発については、人口増対策にひとつ積極的に取り組んでいただきたい。特に開発公社が保有する西側の土地については、私は一等地じゃないかと思えますので、宅地開発とか、そういうものに取り組んでいただければと。また、役場跡地については、横浜なんかがあります老人福祉関連のマンション、これは、けやき台の方のひとり暮らしとか、やっぱり坂道が多いということで、けやき台の方なんかもこのマンションに入れたり、そういうような企画もしたらどうかというふうな形で提案をして、私の一般質問を終わります。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○議長（鳥飼勝美君）

以上で林博文議員の一般質問を終わります。

ここで1時20分まで休憩します。

～午後0時20分 休憩～

～午後1時20分 再開～

○議長（鳥飼勝美君）

休憩中の会議を再開し、次に、松石信男議員の一般質問を行います。松石信男議員。

○12番（松石信男君）（登壇）

日本共産党基山町議団の松石信男でございます。傍聴者の皆さん、大変お疲れさまでございます。

私は、町民こそが町政の主人公との立場に立ちまして、2項目について小森町長並びに担当課長にお伺いをいたします。

質問の第1は、昨年6月議会でもお尋ねいたしましたが、生活保護費削減と町民の暮らしの影響、特に保護基準の引き下げに伴って平成26年度から町民の暮らしに対する影響が具体的にどう出るのか、大変心配するものであります。前回も申し上げましたが、安倍政権は昨年8月に生活保護基準の引き下げを実行いたしました。平成25年度から3年をかけて670億円、6.5%削減するというものでございます。この基準引き下げは受給世帯の96%に影響を与え、最大で1割削減される世帯、月2万円もカットされる世帯も出てくるとともに、これにより影響を受ける人が生活保護受給者にとどまらず、町民のさまざまな暮らしに影響してくるということ、例えば就学援助、個人町民税非課税限度額、最低賃金に影響を与え、保育料、介護保険料などが上がることなどが前回の質問の中で明らかになったところでございます。

私は、生活保護基準引き下げに反対するとともに、基準引き下げで町民の暮らしに影響が出ないように基山町としての対応を求めてまいりました。そこで、3つほどお尋ねをいたします。

まず1つ目に、今回の生活保護基準の引き下げで減額された保護費の世帯平均額、それと廃止された世帯は何件なのか、答弁をお願いいたします。

2つ目に、小中学生のうち経済状況が厳しい家庭に給食費や学用品などを補助する基山町の就学援助の支給は生活保護基準の1.2倍を基準としておりますが、今回、生活保護基準が下がることで、これまで就学援助を受けていた人が支給対象から外されるおそれがあります。現在の就学援助人数と就学援助率はどれくらいか、説明をお願いいたします。

3つ目に、基山町で生活保護基準を参照して金額の設定を行っている事業は何があるのか、また、基準が下がった場合の対応についてお聞きをいたします。

質問の第2は、学童保育のあり方についてお伺いをいたします。

言うまでもなく、学童保育は共働き、ひとり親家庭などの小学生の放課後や、学校が休業

日の土曜日や夏休みなどの長期休業日に朝から一日を過ごす施設であり、家族と同じように過ごせる生活の場となっており、またそのことを通じて、保護者が働き続けること、その家族の暮らしを守るという役割があることは皆さん御存じのとおりでございます。ですから、学童保育は、子育てをすることと働くことを両立させるためには大切な事業であり、充実させることは自治体の責務と考えるものであります。

基山町の学童保育は、保護者の要望に応え佐賀県では比較的早く入所対象児童を6年生までに拡大し、開設時間も午後7時まで延長してまいりました。また、ひまわり教室への利用者増に伴って、ことしの4月から開設されます福祉交流館でも学童保育が行われます。さらに、子ども・子育て支援法の制定と児童福祉法の改定によりまして、国として学童保育の基準を初めて省令で定めます。市町村は国の定める基準に従い、指導員の資格と配置基準、開設日、開設時間、施設など条例で学童保育の基準をつくることになり、来年4月から実施されることになりました。このように今、学童保育のあり方が大きく変わろうとしております。

そこで、2点についてお伺いをいたします。

まず第1点目に学童保育料、保護者負担金についてお尋ねをいたします。

1つ目に、この学童保育料は月曜から土曜まで預けると一月当たり3,200円、延長を含めれば4,400円となっておりますが、経済的に厳しい家庭からこの保育料を何とかしてほしいという声があります。保育料の減免はどのようになっているのか、お尋ねをいたします。

2つ目に、入所児童の中で就学援助を受けている人は何人ございましょうか。

次に、2点目に指導員の労働条件についてお尋ねをいたします。

全国学童保育連絡協議会の2012年の調査によりますと、今、学童保育の指導員が不足をしています。学童保育の急増も一つの理由とされておりますが、安心して働き続ける上で、労働条件が悪いことが大きな理由と言われております。年収が少ない、勤続年数がふえても賃金が上がらない、退職金がない、社会保険がない、一時金がない、時間外手当がないなどの現状が指摘をされています。子供たちが安心して生活できる学童保育をつくるためには、指導員の労働条件の改善こそが今必要ではないでしょうか。

そこでお聞きをいたします。

1つ目に、指導員で正規職員と非正規、パート職員はそれぞれ何名ございましょうか。

2つ目に、指導員の時給と一人当たりの平均年収は幾らになってございましょうか。

これで第1回目の質問を終わります。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）（登壇）

それでは、松石信男議員の御質問に答えを申し上げます。

1 項目めでございますが、生活保護費削減と町民の暮らしの影響についてでございます。

(1)生活保護基準の引き下げで減額された世帯平均額、保護廃止世帯は何件かというお尋ねです。

世帯ごとに状況が異なりますので、減額された世帯平均額につきましては把握をいたしておりません。また、生活保護世帯は平成26年2月末現在で31世帯、48人でございますが、生活保護基準の引き下げに伴い廃止された世帯はございません。

(2)就学援助人数と就学援助率は幾らかということです。

平成25年度の基山小学校は就学援助人数が38名で6.3%、若基小学校は就学援助人数が15名で5.0%、基山中学校は就学援助人数が27名で5.6%でございます。

(3)基山町で生活保護基準を参照して金額の設定を行っている事業と対応についてということです。本町で生活保護基準を参照して金額の設定をしている事業としては、固定資産税減免申請、成年後見制度利用支援事業、国民健康保険減免申請、国民健康保険一部負担金の減免及び徴収猶予などがあります。

その対応につきましては、平成25年8月から3年程度かけて行う生活扶助基準の適正化の2回目分や、消費税率の引き上げの影響を含む国民の消費動向と最近の社会経済情勢を総合的に勘案し、平成26年4月から生活扶助基準の改定が予定されていますので、その状況に応じて対処してまいります。

2 項目め、学童保育（放課後児童クラブ）のあり方についてでございます。

(1)学童保育料、保護者負担金について。

ア、学童保育料の減免についてということです。申請により生活保護受給世帯等は減免しております。

イの就学援助を受けている児童は何人かということです。就学援助を受けている児童は15名になります。

(2)指導員の労働条件について。

アの指導員で正規職員と非正規、パート職員はそれぞれ何名かということです。非正規職

員が17名で、正規職員はいません。

この非正規職員の時給と平均年収は幾らかということです。時給は主任指導員が890円で、指導員が865円となっております。平均年収は平成24年度分で65万円となっております。

以上です。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

それでは、2回目の質問に移りたいと思います。

生活保護費削減と町民の暮らしの影響でございますけれども、今回の生活保護費の削減で減額された世帯平均額は把握していないということでございますが、大体一月平均2,200円ぐらいの減額になるのではないかと。また、先ほども言いましたように、1割削減、もしくは月2万円減額される世帯も出てくるというふうに言われておりますが、どうでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

熊本健康福祉課長。

○健康福祉課長（熊本弘樹君）

先ほど町長の答弁にもございましたように、それぞれ生活保護をもらってある方につきましては状況が非常にばらばらでございますので、月平均どれぐらい下がったかというのを把握するのが、個々によって違いますので、その平均となると厳しいのかなというふうに思いますけれども、仮に、例えば70歳の世帯主がいらっしゃって、それから65歳の配偶者がいらっしゃった場合でいくと、月額では239円程度が、7月以前と8月の差ということで試算をいたしております。それで、一番影響幅が大きいのは、家族4名で、例えば40歳の御主人がいらっしゃって、それから35歳の奥様、それから6歳、11歳のお子様がいいらっしゃる場合で2,447円程度が平成25年度で引き下げられた部分ではないかというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

それが3年間続くわけですね。25、26、27と。そして減額されてくるというわけです。それも私は憲法25条の精神からして大変けしからんことだというふうに思っておりますが、問題はそれが生活保護費受給者にとどまらないということなんですね。これは前回も申し上げ

ました。この生活保護基準というのが、さまざまな町の事業の基準になっているということなんです。それでですね、具体的に就学援助に対する影響についてお尋ねをしたところでございます。

先ほど就学援助については、平成25年度は小・中学校合わせて80人に支給をしているということでございます。もし引き下げ後の生活保護基準を今後算定の基礎とするならば、今まで就学援助を受けられていた児童・生徒が対象から外されるというふうなことが出てまいります。これは大体何人ぐらいと予想されますか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

実際に26年度、27年度にならないと確定したところはわかりませんが、現在の認定者の中で所得が変わらないとした場合に除外されると考えられる数ですけれども、26年度で2世帯3名、27年度で1世帯2名というふうにとめております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

非常にその辺が、まず最初に私は本当に心配をしているところであります。

それで、昨年的一般質問の中でも教育長にその辺についてお尋ねをしたところです。そのときに大串教育長は、収入の状況が昨年とほとんど変わっていないというようなこと、前年度と変わっていない、生活の困窮度も変わっていないというときには、それなりの判断をするということで答弁されました。私は、従来どおり生活保護基準が下がる前の基準で継続されるというふうにそのときは解釈したわけですが、実際この26年度、一応の申請というか、終わっていると思いますけれども、どのようにされるのか、御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

御案内のように、基山町の基準としては生活保護基準の1.2というものを設けておりますが、そのあたりはきちんとした、そこでもう一文たりともそういうことということでは審査

をするときにやっていないんですね。ですから、ちょっと曖昧ですが、前申しましたように、全く昨年と同様な収入で生活の状況も変わらないのであれば、やっぱりそれなりの判断をしていかなければならないのかなということをおもっております。

ただ、この基準というのは基山町が1.2であって、これより低い市町もございます。また、高いところもございます。そのあたりも精査しながら、ただ、一律にここで線を引いていくというような審査の仕方は今までもやっておりませんので、中身を見ながらやっていきたいと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

それで、先ほど26年度で支給されなくなるんじゃないかという人も出てくるということで答弁がありましたが、この26年ですね、来年度はそういう人は出てこない、今まで支給を受けていたけれども、受けているが、その人たちが26年度で外れるということはないというふうに見ていいんですか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

断言するわけじゃございませんが、私一人で審査をやっているわけじゃございませんので、委員長がいて、最終的に委員長の判断というか、合議をしながら委員長がそういうことを認めたり、認めなかったりということで審査をしておりますので、そのことについては、著しく昨年と状況が変わらないのにわずかのところでそういうことになるということは、私としてもちゃんと意見は述べていきたいと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

ぜひ一人でも外れることがないように、教育委員会ではそういう方向で結論を出していただきたいと思うんですが、厚生労働事務次官が通知を出しておりますね。これについては御存じだと思いますが、これに、生活扶助基準の見直しに伴い他制度に生じる影響についてという通知がございます。それは手元にお持ちだと思います。その通知によりますと、生活扶

助基準の見直しについてはこれに伴い他制度に影響が生じる可能性があることから、政府ではできる限り影響が及ばないようにすると、そういう政府の対応方針の趣旨を御理解いただいて、各地方自治体においても適切な御判断、御対応をいただきますようお願いをいたしますと、こういった通知ですけど、あるわけですね。だから、各自治体で、私に言わすつと、お金ばやらんばって、ぜひその辺は考えて外れる人がないようにというようなことだろうと思うわけですね。

だから、そういう意味で、そういう趣旨を踏まえて、やはり外れる児童・生徒が出てこないように、まず教育長の姿勢が問われると思うわけですから、可愛い、可愛いと言うとちょっと語弊があるんですかね、子供たちが、非常に経済的に厳しい家庭ですから、ぜひともそういう方向で、再度教育長の御見解というか、お願いしたいと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

今、松石議員がおっしゃられたことは十分に理解して、そういうことも踏まえてやっていきたいという気持ちは十分に持っております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

次に、生活保護基準を参照してと、それに照らしてと、基山町で行っている事業について幾つか上げられました。いろいろあるわけですが、これについて、その内容について簡単に説明をしてください。具体的に固定資産税の減免申請とか成年後見制度とかいろいろ言われましたけれども、簡単に説明してください。どういう事業なのか。

○議長（鳥飼勝美君）

熊本健康福祉課長。

○健康福祉課長（熊本弘樹君）

まず、固定資産税の減免、ほとんどが減免関係にまつわる部分でございますけれども、その減免をするに当たって、この生活扶助基準以下の方については一定の減免を行っていくという趣旨の内容の制度でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

だから、その事業の内容を簡単に説明してくださいということです。

○議長（鳥飼勝美君）

熊本健康福祉課長。

○健康福祉課長（熊本弘樹君）

まず、固定資産税につきましては、その固定資産税の賦課額ですね、この部分の賦課をされた部分に関して、先ほども申し上げましたように、生活扶助基準に該当する所得以下の方についてはその一部を減免するというものでございます。

成年後見制度につきましても、これは成年後見制度の利用に伴う部分でございますけれども、これにつきましても、生活扶助基準以下の所得の方に対してはそういった利用の支援を行っていくというものでございます。

それから、国民健康保険税の減免につきましても同様のことでございまして、国民健康保険一部負担金の減免及び徴収猶予といいますのは、その扶助基準以下になりますと通常の病院での負担ですね、今、通常の方は3割ですけれども、これがその収入によって2割になったり1割になったりという制度でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

もうちょっと詳しく、わかりやすく説明してほしかったんですが、大体おわかりだろうというふうには思いますけれども、その対応として、26年度から行われる生活扶助基準、生活保護の削減の改定に応じて対応していくというような答弁だったと思いますが、それはどういうことですか。

○議長（鳥飼勝美君）

熊本健康福祉課長。

○健康福祉課長（熊本弘樹君）

改定の状況に応じて対処してまいりますということは、特に、先ほど申し上げた事例の中から申し上げるならば、国民健康保険の一部負担金の減免及び徴収猶予につきましては、国の生活保護基準が引き下げられたことによりまして、国のほうではその緩和措置を設けてお

ります。平成25年度、現年度につきましては29分の30、それから平成26年度につきましては28分の30、それから平成27年度以降については1.1倍に緩和をして、同じ所得のラインであればそういった一部負担が受けられるようにということで、この制度についてはそういった国の財源措置も2分の1ございまして、それに応じて減免をした場合には、その2分の1が国保の財源で言うところの特別調整交付金の中の特別な事情があるものに該当させて、2分の1が財源補填されるということになっておりますので、この部分に関してはそのような状況で対処をしてまいりたいというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

今言われた医療費の一部負担金の減免の部分ですね、政府が通達を出しておりますが、一部負担金の減免措置に対する財政支援の見直しについてということで出しているわけですが、これについてはちゃんと財政措置をやりますよということで出しているわけです。ですから、いわゆる引き下げ後の生活保護基準でやるのではなくて、従来の基準で私はできると、されるというふうに思いますが、そういう方向でやられるのですか。

○議長（鳥飼勝美君）

熊本健康福祉課長。

○健康福祉課長（熊本弘樹君）

この一部負担金の免除につきましては、国のほうもそういう形で従前の形に影響を与えないところで減免をしていくという考え方を示しておりますので、本町としても同様の取り扱いをしていきたいというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

それで、それは何とか食いとめられそうですが、あとの部分なんですね。固定資産税の減免申請部分、成年後見制度部分、国民健康保険税の減免申請部分とかですね、これは生活保護基準が下がったらもう仕方ありませんと、それに従ってするという事なんですか。26年度の生活保護基準改定が予定されておりますので、その状況に応じて対処するという事は、要は引き下げますよと、引き下げというか、従来受けられていた人が今度は受けられんごと

なるという状況なんですけどね。仕方ないという考え方で対処されるんですか。

○議長（鳥飼勝美君）

税務住民課長。

○税務住民課長（鶴田勝美君）

今の質問の中の固定資産税の減免の件なんですけれども、基本的には、生活保護法の規定による扶助を受けている者が所有し自己の居住の用に使用する固定資産については100分の100減免するというようにしております。

それと、あと1つ、町民税の減免申請も同じく、生活保護法の規定による扶助を受けている者については100分の100というふうに減免するようにしております。

以上です。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

だから、そこが下がってくるわけですね、生活保護基準が下がるから。今までなら受けられよった人が受けられんということが出てくつとやないですかということに心配しているわけなんです。

それで、これも先ほど紹介をしておりましたように、厚生労働事務次官の通知では、各自治体で適切な御判断、御対応をお願いしたいということで来ているわけです。だから、基準に従いなさいということじゃないわけです。政府の言うとおりに従ってしなさいというわけでもないわけです。その件で、町長は昨年6月の私の質問に対しまして、その辺も非常に心配されて、このように答弁をされております。「国がそういうことを打ち出してくれば、いろんな影響が出てくるわけでございます」と、「その辺のところは各担当部署ともよく検討いたしまして、できるだけ影響が出ないように、ないように考えていかにやいかんだろうというふうに思います」ということで答弁をいただいたわけですね。だから、思っただけではどうかなというふうに思います。

先ほどの政府の厚生労働事務次官の通知にもありますように、基山町の事業について影響が出ないようにすると、従来の基準で行きますよと、前回の答弁からすれば私はこうなるんじゃないかと、政府のさっき言った通知なんかを見れば、基山町ではね、それはほかの自治体はわかりませんよ。でも基山町ではそれでいきますということもできるんじゃないですか。

それは担当課長なり、町長でも結構なんですけど、これは町長に聞いたほうがいいのかな。町長、どのようにお考えですか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

以前にそういうお答えをしておるとこのようでございますけれども、それはやっぱり、それを覆すというつもりはございません。ただ、今度ある程度具体的になってきましたところでの、今出ておりますことについての解釈といえますか、それから実際の運用、進め方、その辺のところはまた、ここで私もはっきりした言い方はできませんので、担当のほうともこれまた協議をしていきたいと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

御存じのとおり、小森町長は基山町民のための町長でございますから、町民の暮らしの基準が下がるということは町長も心配されているわけで、基山町としてできることがあるなら、やはり町長の判断ですと、こういう立場に立って現行の水準をぜひ据え置いていただきたいと、このことを申し上げておきたいと思っております。

次に、学童保育のあり方についてでございます。

先ほど答弁いただきました。今、学童保育料、保護者負担金なんですけれども、減免制度があるということでもあります。で、生活保護世帯だけということです。現在、減免を受けている世帯件数、これは何件ありますか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

現在、減免の世帯はございません。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

減免制度はあるけど、世帯はないということですね。この辺が、申請によるということに

なっておりますから、生活保護世帯で学童保育に通われている方について申請されていないということもあるのかなというふうに思いますけれども、ちょっとこの辺、町民の方にも聞いてみますと、そういう制度があることを知らなかったと、知りませんでしたと、最近聞きましたと。誰から聞かれたですかと、たしか役場職員から聞いたということですが、知られていないんですよ。生活保護世帯については学童保育が減免になりますよということが知られていない。いや、それは申請をしないと減免できませんのでというふうに町は言われるかもしれないけれども、そういう減免制度があるということの周知が非常に不足しているというふうにも実際保護者の方から声を聞きましたので、その辺はやっぱり何らかの形で周知に努めると、担当職員の方がそういう点では一番、ここは減免制度がせっかくあるから申請せんとすかということなんかも言う必要があるというふうに思いますが、どうですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

ただいまの点ですけれども、生活に関する部分でなかなか微妙なところではございますけれども、一般的には減免制度があるということはもう少し皆様方に周知をしないといけないのかなと思います。ただ、これまでの事例でいきますと、対象者の方に、申し込み等でいろんな御相談があったときに、こういう制度もありますから申請されてはというところでの協議はさせていただいたことはございますので。ただ、それでも、いや、ちゃんと料金を払って通わせますということで、その場合は申請をされなかったんですけれども。ただ、そういった御相談があった場合には、きちっとそういった制度を説明しながら、全ての方にはなかなかそういったことは、受付の時間等もありますのでお伝えしませんが、御相談があった場合にはお答えをしております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

ぜひそういうことでお願いしたいんですが、知らなかったということがあるんですよ。知った上で申請せんならそれはわかりますよ。ぜひそういうことがないようにお願いしたいと。今、減免している人がいないということでございますからね。

それで、この学童保育に入所されている方で就学援助を受けておられる児童は15名ほどだ

ということですが、この世帯の方の経済状況はどのように把握されていますか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

入所の条件に所得等の制限がございませんので、所得状況の把握はしておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

就学援助を受けられている世帯の経済状況は、先ほど教育長なりから言われたように、生活保護基準のすれすれ、1.2以下なんです。そこはわかってあると思うんですよね。すれすれなんです。生活保護を受けるか受けまいかという部分なんです。そういう認識はお持ちだろうと思いますが、基山町の次世代育成支援対策後期行動計画、この中にはちゃんと書いているんです。いや、就学援助を受けているところはというふうな形じゃ書かれていませんが、例えば、「母子家庭は児童の教育、進学、しつけなどの点で悩みを抱えており、多くの場合、経済的、社会的に不安定な状態にあります。」ということを書いて、具体的な施策の方向性という中でも「保育所や放課後児童クラブ等の利用における配慮」というのがあります。「保育所や放課後児童クラブ等の利用に際し、母子家庭とひとり親家庭の利用に配慮します。」というのがあるわけですね。まあ、御存じだというふうに思います。ですから、非常に経済的に厳しい状況にあるということにははっきりしているわけです。

それで、実は、町内で子育てしていただいている2人のひとり親家庭、母子家庭の方ですが、現状についてお伺いをいたしました。いずれの方も生活保護は受けなくて、就学援助は受けられている家庭でございます。

あるお母さんは、子供が2人、小学4年生と今度1年生になる子供さんがおられます。現在小学4年生の子供さんは学童保育に入所されていると、新1年生になる子供さんも入所させる予定であると。土曜日は利用料が高くなるので利用していないと。仕事はパートで月8万ぐらいということでした。

もう一人のお母さんは、子供が小学校4年、小学校1年、幼児4歳と3人で、学童保育は利用していないと。学童保育に預けたほうが安心はできるけれども、幸い小学4年生の姉ちゃんがしっかり面倒を見てくれるので、子供に鍵を預けているということでもあります。収入

について、正規職員ということですから手取り12万ぐらいと。ボーナスが一、二万円ということですが。

ですから、このように、特にひとり親家庭の現状は、先ほど就学援助を受けられている家庭の経済状況が大変厳しい状況だというふうに言いましたけれども、非常にこれらを見ても、学童保育にも預けたいけれどもなかなか預けられない、もしくは預けてもちゅうちょすると。土曜日はなぜ預けんかという、利用料が高くなると。高くなるというか、利用料が別にかかるわけですから。だから、仕事は土曜日が休みのところを見つけていますということなんです。

ですから、こういう状況の中で、やはり私は、希望する全ての子供さんが安心して入所できる、そのような状況にする、そういうふうにする必要があるのではないかというふうに思います。そのためには、やはり所得とか生活の状況を考えて減免制度の充実が今求められているというふうに思っているわけでございます。

そこで、インターネットでもいろいろ出してみたわけなんです、熊本県の宇土市とか島根県の大田市では、就学援助を受けられている世帯については減免をしております。その辺を考えて、私は利用料の減免を提案したいというふうに思っています。どうするかということでもありますけれども、今、生活保護世帯は減免されておるわけですが、就学援助の受給世帯、これは半額免除とすると。2人以上同時入所世帯、これは2人目は半額免除、3人目以降は全額免除とすると、こういうふうに私はすべきではないかと、このように考えておるわけなんです。

そこでお聞きをしたいわけですが、基山町の保育料は所得に応じてなされておりますが、どういうふうな段階になっていきますか。どういうふうな保育料の決め方になっていきますか。簡単に結構です。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

保育料のほうは、基本的に住民税の税額に基づいて段階的な階層別の保育料を設定しておりますし、当然無料というのは出てまいります。それと、2人目、3人目については半額ないしゼロというような形、それは保育料のほうではあります。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

保育料については、今言われたように、基山町では所得に応じて15段階に分けられているわけですね。国の設定は8段階なんですね。しかし、基山町では、去年、おとしぐらいですか、やはり負担を下げようということで保育料が引き下げられました。さらに15段階というふうに分けられて設定されています。

ですから、そういうのを考えれば、私は、さっき言った就学援助の受給世帯に対する減免、それから2人以上とか3人の部分ですね、これについてはやはり検討すべきじゃないのかというふうに思うわけですが、これはどなたか、町長がいいですか、こども課長がいいですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

御指摘のように、前回の一般質問の折にもこの御提案をいただいたところでございます。町としましても、当然この運営については、一定の費用もかかりながら、その一部を保護者の方の負担金という形で納めていただいて運営をし、国県の補助を受けながら運営をしているところでございますので、当然その費用の部分の負担というのも考えながら、また、基本的には保護者の方がお仕事をされているというところで保育ができないと、それでお預かりをして、遊びと、それから生活の場を提供するという面もございまして、それをトータルで考えながらいかないといけないと思っておりますけれども、当然、今御指摘の点については今後十分検討する部分ではないかというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

先ほど紹介しましたように、ほかの自治体でも保育園の保育料についてはそれだけ分けていると、しかし学童保育にはそれが無いというのはやはり問題ではないのかという部分もあります。だから、軽減措置をとっている自治体も先ほどちょっと2つぐらい紹介したんですが、あるわけですから、ぜひ前向きに検討していただきたいというふうに思っております。

最後に、指導員の労働条件の改善でございます。

先ほど答弁いただきましたように、年収が65万円ということで非常に低いと、もちろん労

働時間も少ないわけですが、非常に指導員の方はそういうひどい状況じゃないのかと。本当に子供たちの、学童保育というのは先ほどいろいろ言いましたように大変大事な事業でありますし、子供たちの放課後を保障すると、遊びとか生活を保障すると、そのためにはやはり指導員の方が一生懸命頑張っておられる。ですから、この指導員の処遇の改善は私は非常に必要だというふうに思うわけです。それは私一人だけが言っているわけではなくて、議員の間でもそういうような声がたくさん出ているわけでありまして。

それで、例えばどういうことかといいますと、これはもう指導員の処遇改善が必要だというのは、たくさんの新聞報道等も出されているわけです。それはちょっと紹介する時間もそんなにありませんので。

それで、ここで1つお伺いしたいのは、この指導員の処遇の改善、子ども・子育て支援法がありますけど、その法ではどのように述べられていますか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

ただいま放課後児童クラブの基準に関する専門委員会というのを立ち上げられて、その中で議論をされております。その処遇については、その資格の問題等が論点とされております。具体的な賃金とか、そういった部分までは確認しておりませんが、もうしばらくすると、最終的な委員会報告という形で成案が出てくるのではないかとというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

子ども・子育て支援法の附則にこのようなことが書いているわけですね。指導員の処遇の改善、人材確保の方策を検討ということで盛り込まれたということになっています。その内容は、質の高い教育、保育その他、子ども・子育て支援の提供を推進するため、幼稚園教諭、保育士及び放課後児童健全育成事業に従事する者等の処遇の改善に資するための施策のあり方、人材の確保のための方策について検討を加え、所要の措置を講ずるというふうになっているわけですね。ですから、これも待ったなしの課題なんですよ。

これ最後に時間がありませんので、きのうからもずっと出ています、町長、どのように今

後対処していくというふうにお考えですか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

確かに、この指導員さんの処遇ということ、これはやっぱり変則勤務、時間的にもいろいろそういう問題もございますもんですから、その辺もやっぱり難しい面がございます。それはそれとして、また、できるだけいい方向には考えていきたいというふうには思います。

○議長（鳥飼勝美君）

松石議員。

○12番（松石信男君）

ぜひそういう方向で、これからさらに法律でも位置づけられて大事な事業となってまいりますので、よろしくお願ひしたいということをお願いして、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（鳥飼勝美君）

以上で松石信男議員の一般質問は終わります。

ここで2時30分まで休憩します。

～午後2時19分 休憩～

～午後2時30分 再開～

○議長（鳥飼勝美君）

休憩中の会議を再開し、次に河野保久議員の一般質問を行います。河野保久議員。

○5番（河野保久君）（登壇）

皆さんこんにちは。5番議員の河野保久です。休日の昼下がり、わざわざ傍聴においでいただきありがとうございます。

早いもので、東日本大震災から3年が経過しようとしております。改めて、亡くなられた方、遺族の方には哀悼の意を表したいと思います。

早いもので私も議員としての3年目をやがて終わろうとして、あと1年の任期になって、3年目最後の一般質問ということになります。議員になりましたときの責任の重さ、感じた重さを思い起こして、住民としての目線を忘れずに、愛する基山町、そして、けやき台を住みよい町にするために精いっぱい25年度の最後の一般質問のトリをとらせていただきます。

いまひとときのおつき合いをよろしく願いいたします。

今回は、任期残1年の活動の中心となるであろうと思われる課題の中から、けやき台関連の諸問題と、どこまで進んだ認知症の対策という2つの事項について質問させていただきます。

それでは具体的な質問に入ります。

まず、質問事項の1番目です。どうするけやき台関連の諸問題ということですか。

1番目、これはもう昨日、同僚議員のほうも関連のような質問をしておりますので一部重複するところもあると思いますが、御回答いただければと思います。

1番目、白坂久保田2号線の改良工事について以下の点をどう考えているか、町の見解をお示してください。

ア、平成25年12月にけやき台各自治会長（14区から17区区長）の連名で提出された「計画実施に向けての「説明会」の開催を求める」町民提案に対する所感を問います。

イです。開通に伴うけやき台団地内の安全についての基本的な町の考え方をお示してください。

3番目です。周辺環境整備（三国・丸林線の高速道路ボックス、三国踏切の拡幅等）をどのように進めていくお考えなのか、明らかにしてください。

2番目、けやき台駅のバリアフリー化について、以下の点について町の見解をお示してください。

ア、バリアフリー化完成までの各年度ごとの工程をどのように考えているのか。また、いつごろの完成を目指すのか。

イ、地域公共交通活性化協議会に小委員会「けやき台駅バリアフリー化促進委員会」を設置する目的をお示してください。

3番目、軽トラック市の現状と今後の展望をどのように町としてはお考えなのか、考え方をお示してください。

4番目、その他、町として、けやき台を見て、今後問題になるであろうという事象や事案があれば具体的にお示してください。

2番目です。これは、認知症対策はどこまで進んだかということですか。

昨年の6月議会で、まず認知症に対する町の見方をたどりました。そして、9月には私なりに諸対策を挙げて提言もしました。今回は、それがどこまで進んでいるのだろうか、そ

れから半年たっておりますが、どこまで進んだのだろうかということを確認したくてこの質問になっております。

1 番目、昨年 9 月定例会において認知症に対する具体策を質問してから約半年が経過しました。次に挙げる事業のその後の状況についてお尋ねします。

ア、認知症サポーター講座の開催状況及び受講者数を示せ。

イ、「認知症の人と家族の会佐賀県支部東部地区会」との連携への取り組みは進んでいるのでしょうか。

ウ、徘徊症状の重度の方へのGPSの実費補助の検討はどうなっているのでしょうか。

2 番目、大牟田市では徘徊SOSネットワーク模擬訓練を平成14年度から実施して、今回、去年たしか十何回を迎えたという話を聞いております。そして、成果を上げているという話を伝え聞きます。基山町でも具体化できないのでしょうか。お考えをお示してください。

3 番目、認知症に対して、町として今後取り組んでいきたいと考えている具体策があるのでしょうか。あればお示してください。

以上で1回目の質問といたします。御答弁のほどよろしく願いいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）（登壇）

最後でございますけれども、河野保久議員の御質問にお答えを申し上げます。

1 項目め、どうするけやき台関連の諸問題ということで、(1)白坂久保田2号線をどう考えるかということです。

アの昨年末にけやき台各自治会長から連名で出された計画実施に向けての説明会の開催を求めるといふ提案にどう思うかということでございます。これをいただきましたときに、やはり地域の意見、要望をしっかりと伝えなければならないという使命感に基づいた区長さん方の立場といたしますか、お仕事の大変さを感じたということが1つ、そしてまた町民の皆さんへは都合7回の意見交換会と、それから広報等で説明を行ってまいりましたが、今後も住民の皆様様の理解を得られるようにさらに努めていかなければいけないというふうに感じました。

イの開通に伴うけやき台団地内の安全についての基本的な考えということでございます。住民が安全で安心して暮らせることが共生の基本でありますので、説明会等で住民の方の意

見、要望をしっかりと聞きたいと思っております。

ウの周辺環境整備（三国・丸林線の高速道路ボックス、三国踏切の拡幅等）をどのように進めていくかということです。三国・丸林線の道路改良につきましては、意見交換会でも多くの要望がっておりますので、白坂久保田2号線の完了後に計画をしております。

(2) けやき台駅のバリアフリー化についてでございます。

アのバリアフリー化完成までの各年ごとの工程をどのように考えておるかということ、またいつごろの完成を目指すかというお尋ねです。早期の完成を目指しておりますが、現在のところJRからの回答がございませんので、年度ごとの工程は組めない状況でございます。

次に、イの地域公共交通活性化協議会に小委員会「けやき台駅バリアフリー化促進委員会」を設置する目的ということです。国から鉄道駅のバリアフリー化に対し補助を受ける場合は、事業者、利用者及び関係団体から成る地域公共交通活性化協議会において、けやき台駅バリアフリー化計画の策定が補助要件となっているためでございます。

(3)の軽トラック市の現状と今後の展望をどのように捉えているかということです。けやき台朝市は、毎週日曜日に朝8時から猪ノ浦児童公園で開催しております。店舗数につきましては、25店舗登録されており、13店舗程度で開催され、来客数は約80名程度でございます。会場の設営につきましては、関係者の方で朝早くのぼり旗と看板を設置され、出店者の軽トラックが会場に出入りする際の安全確認もされております。また、役場のほうで第1日曜日に広報車で朝市開催を知らせ、月ごとにポスターを作成し、出店会場に掲示しております。現在は、出店者の方も買い物客と顔見知りになられ、非常にいい環境でコミュニケーションがとられており、出店者の中には売り上げより買い物をされる方との会話を楽しみに出店されておられる方も多く見かけられます。今後の展望につきましては、出店者の方が高齢化により出店ができなくなった場合の課題等ありますので、けやき台朝市実行委員会の中で十分協議していく必要があると思っております。

(4)その他、町として、けやき台の問題として捉えている事案があれば具体的に示せというお尋ねです。高齢化とそれに伴う地域の活力の維持や、交通弱者等の諸問題をどのように対応するかが大きな問題だと考えております。

2項目め、認知症対策はどこまで進展したのかということ、(1)昨年9月定例会において認知症に対する具体策を質問してから約半年が経過した、次に挙げる事業その後の状況等と

ということです。

アの認知症サポーター講座の開催状況及び受講者数を示せということです。

認知症サポーター養成講座につきましては、平成25年度は平成26年2月末現在で18回開催の392人の参加となっております。

イの「認知症の人と家族の会佐賀県支部東部地区会」との連携への取り組みは進んでいるのかということです。認知症の人と家族の会佐賀県支部東部地区会は、平成23年7月に世話人10人で設立され、会主催の「つどい語ろう会」は44回、延べ578人の方々が参加されています。本町では認知症サポーター養成講座の講師等をしていただいております。また、基山町社会福祉協議会で実施しています認知症の相談会でも協力をいただいております。

ウの徘徊症状の重度の方へGPSの実費補助の検討はどうなっているかということです。徘徊高齢者へのGPS機能を有する装置への実費補助につきましては、事故防止や家族の心理的な不安を解消する意味でも一つの有効な手段であると考えています。平成26年度に老人福祉計画策を策定いたしますが、それと並行して先進地の取り組み状況等を参考に、具体的に検討してまいります。

(2)の大牟田市では徘徊SOSネットワーク模擬訓練を平成14年度から実施し、成果を上げていると。基山町でも具体化できないのかということです。大牟田市の徘徊SOSネットワーク模擬訓練は、住みなれた地域で、よい環境でよりよく暮らし続けることを実践する先進的な取り組みであると考えております。本町でも現在ケア会議で検討中であり、平成26年度には何らかの具体的な取り組みをしたいと考えております。

(3)今後取り組んでいきたいと考えている具体策はあるかということですが、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住みなれた地域のよい環境の中で暮らし続けることができる社会の実現を目指すための具体的な取り組みとして考えられることは、まず現在実施している認知症サポーター養成講座のさらなる推進が挙げられます。また、次の段階として受講者を対象とした認知症サポーターステップアップ講座を開催し、その修了者によるボランティア活動への参加促進があります。

次に、認知症家族を支える事業として、地域場所づくり相談会の定例開催があります。また、体制づくりとして関係機関との連携会議の強化や、見守りネットワークの推進などがあります。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

それでは、関連の質問を一問一答形式で行いたいと思いますが、まず冒頭に、きのうの木村議員の人口増対策のところ、けやき台の開発が終わってからというような発言が町長のほうからございました。私の認識としては、けやき台の開発はアトラスの跡地が完了しない限りはまだ終わっていないという認識なんです、その辺の認識はどうでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

きのうもその直後にちょっと河野議員からその指摘がありましたけれども、本当に私はけやき台の開発は終わったというような言い方をしたのかどうか、この辺はちょっとまた後日、議事録も録音もあるわけでございますから、ちょっと確かめさせていただきます。決してけやき台の開発が全て終わったというような認識は持っておりません。まだまだ本当に今進めてあります宅地分譲、あの辺も非常に私は心待ちにしておるところでございますので、申し上げておきたいと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

安心しました。それでは、その前提でお話を進めさせていただければと思います。議事録はいいです。わかりました。真意がよくわかりましたので。

まず、きのうも牧菌議員のほうからもいろいろこの関連の白坂久保田2号線の改良工事については質問がありましたので、私なりにちょっと何点か質問させていただければと思います。

まず、区長会の方々からのこういうあれを見て町長がどういう感じを持たれたのかなということで、回答のほうは計画ができた段階で説明会を行いますよというような回答をされているということで、それはもうわかっているんですが、あの何回かの説明会ですね、地区の説明会と、それから全体での説明会、それから基山町全体での説明会をやった感想として、町長はあそこの工事の住民の理解が、必要度というんですかね、なぜ必要かという理解が深

まったとお感じになられたのでしょうか。まずその辺の所感をお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

私としましては、最初のころよりも大分お話、会を重ねるごとに、全てとはもちろんいきませんけれども、理解もしていただけるようになったかなというような感触は持ってきております。

そういうところでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

それで、ちょっと確認なんですけれども、25年度の去年の予算のときに、たしか調査費ということで、あそこの何かありましたよね、予備調査業務委託料399万円ほど25年の予算で上げて、その説明の中で、三国・丸林線交差点から国道3号線までの区間で行うと。高速道路ボックス、JR踏切、3号線との接続等の調査も行って、それでその中で交通量調査を行いますよという説明を受けた覚えがあるんですが、そういう認識でよろしいでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

町長の答弁にもございましたように、三国・丸林線の道路改良につきましては、意見交換会の折も多くの方の御要望がございましたので、その事前調査といえますか、それを25年度に行っております。延長が約430メートルございますので、その中にあります高速のボックス、それから三国踏切、それから三国交差点、そのあたりの関係者との意見、そういったものを伺ったところでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

それをやっていた件で、僕は去年の予算を聞いたときに、そういうことをちゃんと調べてからやっぱり住民に説明して、きちんとお話ししなければいけないんじゃないですかという

ふうに一般質問を以前させていただいた覚えがあると思うんですけれども、今回の認識としましては、説明会の以前に、たしか予算がついてから最初の説明会が7月だったから時間が短いつちゃ短いんですけれども、説明会の中で交通量の調査量なり、事前に最初の段階からこの辺の話が出て、それで説明会が始まるのかなという僕は認識を持っていたのが、当初各地区を回ったときにはそういうことは一切触れられずに、たしかけやき台全体のときに初めて交通量がこうなりますよというような認識が示された、しかもJRボックスとか接続の問題については、どういう調査をされたんだか僕は一向に今までもわからないところがあるんですけれども、その2点について、なぜ交通量調査を当初からそういうものをして、説明会に臨まなかったのか、それから各接続の問題を事前調査したというなら、その調査の状況をどうして説明しなかったのか、その辺についてのちょっと御見解をお願いいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

確かにそういった意見交換会、その中に実際通過しておる交通量、そういったものを提示しながら御意見を伺うのがやはりおっしゃるように正論だったと思いますけれども、その中でやはりそういったお話が出ましたので、確かに途中で交通量調査をいたしまして、その分の交通量の、白坂交差点、それから上の15区からおりてきたところの交差点の通行量、そういったもの、それから三国3号線から入っていきます三国のところの交通量の調査をいたしまして、その分は提示をいたしたというところでございます。

それから、三国・丸林線のそういったポイント、算定のところ、それにつきましては、25年度の予算でやりまして、各担当、先ほど言いましたNEXCO、それからJR、国道事務所、そういったところのやはりその方たちと本当の具体的なお話をしませんとわかりませんので、今、1月現在に成果品ができたというところでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

わかりました。じゃ、その成果をちょっと一度整理していただいて、ぜひ住民のほうにも提示していただければと思います。その辺がはっきりしないと、せっかく意見交換会でみんなが言ったことが何をやってたんだということになっちゃって、話だけということになっ

て、また理解が進まないと思います。ぜひその辺はやったのであれば、きちんと説明会だけでなく、一応区長さんに書面といういろいろな形が考えられると思いますので、ぜひ住民のほうには周知徹底をお願いしたいと思います。

僕が思うに、説明会、町長は以前よりは分みなさんの理解を得られたと感じたと言うんですが、最後のほうの全体の話、全町での、体育館であったんですけどね、たしか。そのときの雰囲気を見ていると、何か話がすれ違いが多かったような記憶があるんですよ。住民はこう言っているけど、町は一生懸命こっち通すことばかりの説明に集中している、お互いにこの辺のすり合わせみたいのができていなかったような気がするんで今みたいな質問をさせていただきました。事前にそういう話をきちんとしていただいて、やっぱり大人と大人の話し合いなんですから、譲るところはお互いに譲ってというのが僕の考えだったんですけど、何かその辺がお互いにすれ違っていたような感じがしました。隣にある新聞記者の方がいまして、どう思うと聞いたら、何か話が全然かみ合っていないねというような感想をちらっと漏らして、ああ、俺ってものの感じ方間違っていなかったんだねという感覚を持っていますので、もう過ぎてしまったことをあれこれ言うつもりはありませんけれども、今後も意見交換会をやられるということでしたら、出せるものはきちんと出して、実のあるものにしていただきたいという真意で、今回この質問をさせていただきますので、その点をまず御考慮いただければなと思います。

それから僕は通す通さないの問題、これはもう町の行政のやることですから、賛成、反対はちょっと自分としてはどうなのかなと考えたことございますけど、どういうことになっても住民の安全がまず第一だよ。それが担保されなければならないというのが僕の基本的なスタンスです。その安全を各担保というのは、やはり周りの道路状況もきちんと整備されないということもあって、いわゆる三国・丸林線の整備も進めていただきたいという質問をしたつもりでございます。

なので、お尋ねですが、まず住民の安全ということで、公安委員会のほうがどうだじゃなくて、町のほうであそこの安全について何が問題かなと考えておられるのか、具体的にお示しいただけますか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

意見交換会の折に、やはり交通量がふえるのではないかということが一番懸念をされておったと思います。その点は、やはり道路を改良するからには主目的といたしましては、やはり交通量がふえるというのは当然私たちも認識をいたしております。その中で、けやき台団地の北部といいますか、その方々の車、そういったものがやはり基山町の白坂交差点のほうに行く、そういった車が今は一方的に下ってきますけれども、それが分散される、そのことによって交通量がふえるということは十分認識をいたしておりますけれども、その中で町が考えておりますのは、やはりスピード、それをどのようにするのかと、制限ができるのかと、そういったところももう少し考えていきたいというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

なんですよ。やっぱり僕が一番怖いのは、朝、小学校の横に立っていていつも思うのは、朝特に車みんな飛ばすんですよ。幸いにもあそこの道路は歩道も両方広くとられておりますので、子供たちの事故とかそういうことは幸い今のところはないんですけども、いつそういうことがあってもおかしくないような場面を何回か私は見受けております。

信号のことも、きのう牧菌議員もいろいろおっしゃいましたけれども、やはり皆さんいろいろです、考え方は。住民の中では、もうあれで十分だと言われる方もおられるし、やっぱり真ん中の4丁目と3丁目、駅に下るところの真ん中ぐらいにもう1カ所欲しいよねというお母さんたちもおられますし、その辺はいろいろだと思うんですよ。

この前ちょっと新聞を見ておったら、最近、何か静岡県のほうで、浮かぶ横断歩道で車の減速をしていると。いわゆる目の錯覚を使った、写真がここにありますがけれども、車で走っていると浮かび上がって見えるんですって。そうすると乗っている人がおっと思って、いわゆるけやき台の道路で段差をつくっているのが、あれと同じようなものが見えるような、何か目の錯覚を利用したものがあるらしいんです。そこが小学校の歩道のすぐそばにつくって非常に成果を上げている。費用も信号機1基幾らか僕わからないですけど、静岡市のあれでは500万円ぐらいかかっているのが、これ1つ20万円で済んだと。それでいて大きな効果を上げているというようなこともありましたので、信号だけにとらわれず、いわゆるスピードという問題であるのなら、いろんなこういう事例も安くて効果が上がるものというものもあると思いますので、ぜひ研究されて、まずスピードを落として安全を守るんだという基本姿勢

を崩さないところで進めていただければと思います。

それと、三国バイパス線のほうも確かにいろいろあって、たしかきのうの答弁だとあそこが通ってからやりますよみたいなお話だったんだけど、いたし方ないのかなと思いつつ、何でなんだろうなという疑問になるところ、早くやっていただきたいと思うのは、通る通らないにかかわらず、特に高速道路のボックスのところ、もう皆さんが再三御指摘いろんなところで受けていると思いますけれども、とにかくあそこが高速バスの乗り場へ行く歩道がもう本当こんなですよ。荷物持ってかばん下げて行かれた方ならわかると思いますけれども、危なくて危なくて、子供なんかいたらお母さんが荷物持ったり、とにかく危ないので、あそこはちょっと接続の問題だけじゃなくて安全の問題から何とかならんかな、早くそこだけでも何とかならんかなという気がしているんですが、その辺はどうなんでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

おっしゃいますように、高速のボックスのところですね、幅員が狭くてございますし、大道路幅員が狭うございますので、あそこのところ、そのあたりもNEXCOのほうとお話をいたしております。それで、きのう申し上げましたけれども、そこにつきましては、コンクリートの躯体に触らないならばボックスカルバート、そういったものの布設は支障がないというような御返事はいただいておりますので。ただ、道路改良をやるときには、起点と終点がございます、先ほど申し上げました430メートル、そういった分の道路改良をするというようなことで計画をいたしませんと、やはりなかなか国の補助事業にはならないというのが現実でございますので、その点は御理解をいただきたいと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

理解したくてもちょっと危ないので余り理解したくないんですけどね。何か手を考えて、本当、幅をもうちょっと広げるとか、歩道の何かそういうことだけでも今考えられる安全対策をやっていただければなと思って、それは最大限の努力をしていただきたいと思います。というのは、あそこかなり今高速バスが頻繁に走っておりますので、利用者が年々ふえているんですよ。だから、何か起こってからでは遅いので、ぜひその辺は、確かに町は町とし

ていろいろ動き方等あると思うんですけども、まず住民の安全ということが第一であるなら、ぜひその辺だけでも前倒しとしてというか、何か手を打っていただいて、町長も県に言っていただいて、副町長も戻られたら県に働きかけていただいて、何とかその辺だけでもそういう意向であるということ十分に伝えていただいて、早目の実行になるようにその点だけでもお願いいたします。

ということで、先ほど申しましたように、この接続の問題については、賛成、反対、接続することには間違いございません。もうとにかく僕の思いとしては、今回の道路の接続は決まったわけですけども、前から感じていたのは、これは町の進め方が悪かったから要らぬ回り道をしたというか、というような感じを持っていますので、今後こういう計画があるときには、今回の反省を無駄にしないでいただかなくて、住民の意思を十分に吸い上げた形、両方が納得する形でのそういう工事にさせていただければと思います。その点だけお願いして、バリアフリーのところに移ります。

バリアフリーについては、ちょっと一、二点確認したいんですけども、小委員会のメンバーをまず教えていただけますか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

小委員会のメンバーは10名の方をお願いをいたしております、まず佐賀県、それから町長、それから地元関係者の方が2名、それから町民のほうから2名、それからJRが2名、それと国交省、それから町ということで10名の委員を考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

この協議会で小委員会にして、その中に分科会的なことで話を進めていって、26年度中に要は計画案をつくらないと話が始まらないよというので、行程というか、僕はその辺のことも聞きたかったんですけど、もう委員は決まったわけですか。決まったのなら26年度中、早急に会議を始めて、何かやられる予定なのかちょっとわからないですけども、早急に計画案をつくるということですね。計画案というと、どのようなことを計画するのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

この事業につきましては、国交省の事業であります地域公共交通確保維持改善事業ということでございます。これは今の循環バスと一緒にございます。その中のメニューの中に、地域公共交通バリア解消促進事業というものがございます。その中で、けやき台駅をバリア解消という計画書をつくらなければなりません。その計画書につきましては、国土交通省が定めた様式がございますので、13項目ですね、そういったものの中の計画をつくりまして、それを運輸局に提出すると。それがなければこの事業は成り立たないということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

その13項目で具体的に、全部じゃなくていいです。重立ったところだけ、どんな項目があるのかだけちょっと教えてください。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

主な項目といたしましては、目的、必要性、それから目標、効果、それから事業費、今度はその事業費に対する負担割合、そういったものを明示されておるということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

さっき、JRのほうからの回答がないんでいつになるかちょっとはっきり言えないというんですけど、目標というか、目途として、どの辺のことを考えて動かれるんですか。その辺だけでも差し支えない範囲で示していただけないでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

26年度にけやき台駅のバリア解消の計画書、それは策定をいたしたいと思います。それ

に基づきまして、運輸局のほうにその対象になるのかということをお願いいたします。しかし、その前段となります事業計画の工事費、それに関しましてはJRの金額といいますか、どういった工事をやるのかといったものの提示がないと、その小委員会もまず開催できないというのが現状でございますので、JRのほうにも真摯にやっていただいておりますけれども、現在のところそういったものの返事がないというのが現状でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

何年待てばいいんですか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

詳細にはなかなか申し上げられませんけれども、まず申請から3年程度はかかるのではなかろうかというふうには思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

そうなんです。それで、住民の気持ちとすれば、道路は通るならしょうがないねというニュアンスです。それよりも、その金あるんだったら一日でも早くやってほしいのはこっちなんです。本当は。なので、4年かかるところをいろいろ知恵を絞っていただいて、いろんなところを使って、1年でも半年でも早く計画を完成できるようにしていただきたいです。僕としては、もうこの議会終わったらやっぱり住民への認識を深めて署名運動でも始めようかなと思っております。そのぐらいの僕は重要なテーマだと思うし、みんなが望んでいるのはこっちのほうが強いと思っています。僕自身もそうです。僕もあと4年たったら70になります。70になったとき、あの階段登れるでしょうかって自信ありません。なので、一日でも早い計画になるように、これはもう本当にお願いです。何とかみんなで知恵を出していただいて、こちらでやることがあったら、それこそ住民一体となって、住民挙げてやっていく覚悟はございますので、ひとつ町長そんな覚悟でいろいろ働きかけていただきたいと思っておりますけれども、決意のほどをひとつ端的に。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

今、課長が4年程度というような言い方をしましたけれども、その根拠というのが私もちょっとまだつかめません。相手があることだから、その計画にもJRさんのいろいろ思惑があるということ、それから設計をやらなきゃいかん、実際かかると。その財政的なもので4年というような数字を出したのか、そういうふうなスケジュール的なものなのか、ちょっと私のはっきりしませんけれども、けやき台としては待ち望んであるというようなことは十分私も認識しておりますので、できるだけ早目ということは思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

時間も迫ってきましたし、次の認知症のところも大変興味があるところなので、もう一、二点けやき台に関連して、軽トラック市。大分町のほうの御協力もいただいて毎月開催になって、3年ぐらいたって、2011年だから3年ぐらいたったのかな、ですよ。大分定着してきたかと喜んでおります。ただ、ちょっと気になるのは、出店者のことを町としては課題として上げられておりましたけれども、高齢化ということもあるんでしょうけれども、何か見ていると僕も毎回近所ですから、僕はちょっと散歩がてら行ける距離にあるんで行っているんですが、大体来るお客さんが固定化してきてしまっているというか、やっぱり遠方の方とかなんとかだとちょっと、4丁目の方とか2丁目の奥のほうの方とかなかなかちょっと来ないので、この辺を何とかしなきゃいかんという思いはあるんですよ。町で自分たちの努力で待ち合わせ場所みたいなのを決めとって、行きますから参加していただけませんかというようないろんな手はあると思うんですけれども、その辺何か町として御協力していただけるようなことはございますか。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

今、議員御指摘のとおり、実際けやき台の公園で行っておりますので、駐車場等はございません。しかしながら、朝の買い物ということでそこまで車で来るといってもなくて、

やはり4丁目からでも徒歩でも来ていただけるというのを何らかの方法で来ていただくと、今おっしゃいましたとおり、車で相乗りで来ていただくとか、今月実行委員会がございますので、そういうふうなところの提案もしていきたいというふうに思います。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

ぜひ町のほうもこのパンフレットの中に、立派なパンフレットをつくっていただいた中に、けやき台朝市というのもやっているんですよって載っけてもらったわけですから、僕はけやき台だけに限らず、やっぱり下のほうの方との交流というのものもあるわけですから、ほかの地域の方々ですね、そういう場になれば最終的にはいいなと思っていますので、ぜひ実行委員会で前向きな御検討をお願いいたします。

それから（「済みません、一言」と呼ぶ者あり）

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

私のほうからも（「手短かにね、時間ないから」と呼ぶ者あり）お礼を申し上げます。実行委員会のほうで本当に真剣に取り組んでいただいて、今のところちょっと、もう一歩というような感じはいたしますけれども、今、河野議員が言われるように、買い物客、これをもう少し広めるような、これはお互い連携しながらやっていかなきゃいかんと思いますので、ひとつまた今後もよろしくお願いいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

それから、けやき台の問題、どんなこと考えていますかというところで、今、高齢者のこと出てくるだろうなと思ったんですが、その辺については具体的にこれから対策を立てていただきたいんですが、その中で1つ僕が気になっているのは、駅前の販売事務所がございますよね、旭化成の。今、旭化成があそこのアトラスの計画をして、これからはいわゆる販売事務所として最後の役目を果たすことになるんだろうと思うんですけれども、もう以前、六、七年前ですかね、あそこを旭化成のほうから何とかしてくれませんかって区長のほうに相談

を持ちかけられたことがあるんですよ、総務課長を通して。要は買って、何か利用していただませんかねみたいな問いかけが町にあったときに、ストレートにけやき台の4区長に相談が来たようなことを覚えているんです。あそこに住宅ができて、そしたら販売事務所としてもう用をなさないわけですし、旭化成としてもあそこは半分邪魔者になってきているんですよ。で、何とかしたいんですよ、もう完全に手放したいんです。なので、そう言うてくる可能性が多分にあると思いますので、僕はどうしろこうしろという立場ではございませんが、今から考えていただいて、先ほどの話ではないですが、けやき台地区の有効なものとして活用できるような形で、今からちょっと内々で検討を始めておいていただければなと思います。必ずそんな遠くない将来でそういう話は出てくると思います。というのは、アトラスの理事会の中でもあそこをどうしようかねみたいなことをちらっと、向こうの社員がぼっと漏らしたような話も聞いていますので、必ず来ると思いますので、ぜひその辺の対処はひとつよろしくお願いたします。僕もどうしたらいいのかまだ考えているところです。

それでは、ぜひそういうことで、けやき台についてはまだまだ問題もあると思いますし、高齢化の問題も言われるとおりです。これから町としてはお金のかかる場所ですが、いろいろな人材がいるところでもございますので、そういう意味での御協力はできる地域だと思っておりますので、ひとつ地区と行政との連携というのは大切だということに佐賀新聞の記事に書かれておりました。そのとおりだと思っておりますので、ひとつそんなことでよろしくお願いたします。

それでは、認知症の問題にちょっと変わります。

何で今回取り上げる気になったかということ、町長のほうも既に目にとまられていると思うんですが、これが1月4日付のウェブ町長室のあれで、ある住民の方から、私の妻が認知症になっていますと。今、町内の福祉施設のショートステイで週5日預かってもらっています。何とかしていただけないでしょうか。その中に、町全体でこの問題をカバーする方策をぜひ検討していただきたいと。発生したときの対応策と事前の対策としてできるだけ安い徘徊情報のようなものを開発してもらえないでしょうか。私は実費を払ってでも早くやってくださいということを望みますと、切実な訴えが出ておったんです。私も同じ町内の方だったので、ちょっとお電話を差し上げて、全然僕らもわからなかったです。知らなくて、どうだったんですかというようなお話をさせていただいて、町ではこういうネットワークみたいなことも考えていますよと。徘徊に対応した模擬訓練も僕はやらなきゃいけないよと思ってい

ますと。ただ全体でやるのは難しいから、まず地域でしょうねみたいな話をしたら、さっさと全体でやってくださいという切実なお叱りを受けました。そのぐらいやっぱり当事者の方は切実なんですよ。で、あれこれ申すつもりはございません。なので、まずGPSの問題。GPSがいいのかどうか僕もわかりません。そこまで、まだまだいろんなものもあると思いますけど、ただそういうようなものをできないんでしょうか。

前向きに考えるとは言っていますが、半年たってもこれ進んでいません。既にみやき町はやっておられます。なので、どういう形であれ検討していただいて、次回の補正予算で出すぐらいのこと、金額はそう対してかからないと思います。できないでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

熊本健康福祉課長。

○健康福祉課長（熊本弘樹君）

前回のときにもこういった御要望もいただいております、具体的に調査をさせていただいて、確かにみやき町のほうはもう既に実施をされてあるということで伺っております。

そういった中で、当然そのGPSそのものを導入することも有効な手段であると考えておりますけれども、あわせて登録制度というものを併設したところで展開をしていければというふうに考えております。それで、具体的には回答でもさせていただいておりますけれども、老人計画を策定する中で並行して検討させていただいて、早ければ26年度から、遅くても27年度にはこの制度を実施させていただければというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

これも町はそれでいいんでしょうけれども、当事者にとったら待ったなしなんです。だから、1カ月でも半年でも早くしてやってもらえないですかね。町長どうですか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

GPSそのものの本当にどんなものか、どんな使い方するのか、どの程度効果的なのかというようなこと、それはわからないじゃないんですけれども、その辺のこともやっぱりいろいろ検証しながら進めていかなきゃいかんということもあると思いますので、それはできる

だけ早くということをおっしゃいましたので、早目早目というようなことでやっていきたいなと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

それから、SOSネットワークもこれ去年やられたときに、ちょうど去年の9月22日に大牟田市でやられて、私も行ってみたいなと思ったんですよね。大牟田市はしっかりしていますよね、ちゃんと参加費用3,000円取るんですよ、弁当代とか取って。それでも見に来る方々がいっぱいおられるんですよ。それだけのすばらしい事業だということだと僕は解釈しております。これに鳥栖地区広域市町村圏組合の方が、当町から行っておられる出向の職員も含めて3人、ここの支援センターの所長も行かれました。どうだったですかと、すばらしいですね、基山でも何とかやりたいですねと所長はえらい感激して帰っておられました。ニュースでも報道されて、たまたまその所長が映って、ああよかったですみたいなあれがあったんですよ。

ぜひ、日本はいろいろ、これ読売新聞で出している「認知症 明日へのヒント」という本があったんですけれども、これを読むと日本は認知症に対して後進国なんですよね。ただ後進国でありながら、世界の先進国から見ると大牟田のやっていることはすばらしいという評価が出ていますよ。それだけの先進地が1時間も走ったぐらいのところにありますから、どんどんどんどん勉強させていただいて、基山は認知症に対する先進地、佐賀の中での先進町になっていただきたい。やることはわかりません。どういうふうになるのか。でもやってみないと何の反省も出てこないし、具体的な対策は出てきません。なので、これはそう金のかかることでもないし、やる気になればできます。ただ、鳥栖地区広域市町村圏組合の地域包括支援センター長が言っていました。基山町は、いわゆる相談は来ますと、こういうことやってください。確かにケア会議もやっておるのは、いろんな方が、町の関係の方が来ておられますけれども、司会は向こうの支援センターのセンター長がやっておられるんですよ。僕は、もうそれは当初の動き方としてはそういうところの鳥栖地区広域市町村圏組合のあれでいいと思うんですけど、もうぼちぼちあれも町主体の、そこに支援センターも入ってもらい、いろんな事業者も入ってもらいという会議に、方向を少しずつ転換していかなくちゃいけない時期になってきていると思うんです。というのは、町で具体的に何もできないと

というのがセンター長の悩みなんです。皆さんから意見を言っていただけます。じゃ、町に持って行って、町が何かやってくれる、どこまでやってくれるのかな、彼女たちや彼らたちはやっぱり鳥栖地区広域市町村圏組合の立場で来ていますから。なので、そういう体制をつくっていただきたい。その前段として、町が先頭に立ってみると、すぐケア会議で検討しますとかという言葉が簡単に出てくるんです。じゃなくて、基山町としてどうするかということ鮮明に打ち出していただきたい。これについてもすぐやるという御返答がいただきたい。そういうことであるなら幾らでも協力します。まず町長から。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

センター長は町でというような、そういう言い方をしたということでございますけれども、これはそれぞれが責任のなすり合いじゃないけれども、この大牟田市だって、これは大谷るみ子さんという方が本当にNPOとして施設として立ち上げてということでございますので、ぜひとも基山町もそういう形で、町が介入しないということじゃございませんけれども、何もかも町でということじゃなくて、やっぱりそういう何かどこかで生まれてきてくれたらありがたいなと、町ももちろんやらなきゃいけませんけれども、そういうことでちょっとまた皆さんと考えていきたいなとは思っています。

○議長（鳥飼勝美君）

熊本健康福祉課長。

○健康福祉課長（熊本弘樹君）

確かにケア会議でということでお答えをしたところでございますけれども、実は本年度中に高齢化の進んだ地区をモデル的に指定させていただいて取り組みをというふうになんかちょっと考えておりましたけれども、なかなか実施できませんでしたので、少なくとも26年度中にはそういった形の地区をモデルとしたSOS訓練については取り組みを行っていきたいというふう考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

大牟田もたまたま何か徘徊されている方の死亡事故があって、これじゃいかんねという

ころから始まった事業であるというように聞いています。だから、そういう不幸なことがあってからやるんじゃ本当に不幸なんです。なので、そうなる前にやれるところから、考えられるところから手を打っていただきたいと思います。なので、ひとつ必ずやってください。来年になって、やっていません、まだ検討できませんでしたでは、僕はちょっと腹立ちますよ。かちんときていますよ、次は。ひとつよろしくお願いします。

認知症についてはそういうことでございます。なので、やっぱり僕は基本的にそういう弱い方々、みんななりたくて認知症になるわけでもないし、一番怖いのはいつ誰がどこかでなってしまうということなんです。ただ、やっぱりその人たちも人間であるし、感情は残っているし、僕もある身内の中で1人認知症になった人間おりますので、ちゃんと感情は残って、例えば、自分の子供のこととかすごく覚えていて大切に思うし、皆さん認知症というと何か忘れてしまったり、何か物忘れだろう、そういうことだけしか浮かばないですけども、やれることっていっぱいあるんです。そうやって、やっぱり地域に貢献したいという気持ちも残っているんです。だから、そういう人たちを包み込めるような町は優しい町であり、安全な町だと、僕はそういう町にしたいなと、自分自身のためにもそういう町にしたいなと思っています。なので、ひとつその点に何か意見があればお聞きしたいですが、町長どうですか、その辺の御決意、最終的に。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

私ももう全く一緒です。安全も必要ですし、それから安心、みんなで通じ合って生きていくというような、そういう心のある町づくり、これがやっぱり必要だというふうには思っております。いろんなやらなきゃいかんこともございますけれども、詰まる所やっぱり心と心のつながり合い、この辺をみんなが共有するというような、そういう町づくりをぜひともみんなとやっていきたいと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

河野議員。

○5番（河野保久君）

総合計画で、僕はこの前、意見交換会があったときに、1つ気に入ったこと、愛が大きい基山町、この言葉はいいあれだなと思いました。やっぱり愛があふれるそういう町にしたい。

それともう1つ言い忘れたのが、その意見交換会で、基山町というと皆さん住みやすいという認識がございますよね。ある1人の方から、若いお母さんでした。私はけやき台に住んでいますと。この町に移り住まなきゃよかったって言われた方がおったんです、お母さんに。何でかなと思ったら、けやき台に住んでいます、乳幼児がいます、遊ぶ人がいない、周りで遊びたいと思っただけでもない。唯一私の心のよりどころは、そこの保健センターの2階ですと。ちょっと寂しいなって、僕としてもおやつと思いました。ああ、やっぱりこういうような見方も拾い上げていかなきゃいけないんだねって、つくづくそのとき思いました。なので、そういうところにも目の行き届く、安心、安全で優しい愛あふれる町に基山町をするためにこれからも頑張っていきますので、その決意表明をいたしまして一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（鳥飼勝美君）

以上で河野保久議員の一般質問を終わります。

本日は以上をもちまして散会といたします。

～午後3時30分 散会～